

さわやかな世界をつくる



新菱冷熱
CSRレポート
2015

経営ビジョン「さわやかな世界をつくる」の実現を目指して 新菱グループとしてのCSRへ



社会と人と環境に誠実な事業活動を通して
新菱グループとしてのCSR活動を推進し、
社会の持続的発展に貢献していきたいと
考えています。

代表取締役社長

加賀美 猛

CSR活動の展開

近年、企業の社会的責任の重要性が増してきていると感じています。そこで、社会からの要請に正しく応えるため、新菱冷熱は2014年度からCSR活動に着手いたしました。

新菱冷熱は、事業を通して社会の持続的発展に誠実に取り組み、社是の実践、そして経営ビジョン「さわやかな世界をつくる」の実現を目指し続けております。また、事業活動と社会的責任を果たすことを一体で進めていかなければならないと考えています。

昨年、新菱冷熱は初めてのCSRレポートを発行しました。そして2年目は、新菱グループとしてのCSR活動を意識しました。新菱グループには、建設業の新菱冷熱をはじめ、ホテル業の秋田キャッスルホテルまでさまざまな企業があります。各社の視点でCSR活動を行うことも大切ですが、これからは新菱グループ全体として、包括的なCSR活動を実行していきたいと考えています。

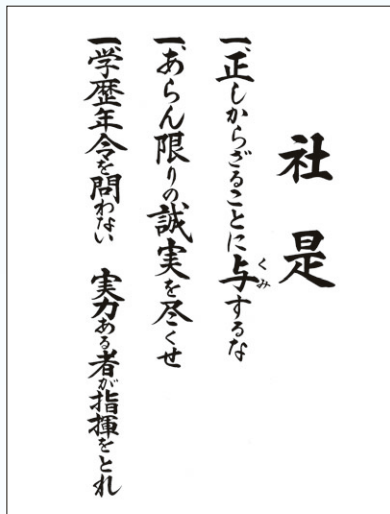
今年度は、新菱グループとしてのCSR活動へ発展させるため、2015年2月には、グループ会社への説明を行い、CSR実行委員を選任しました。4月にはグループ会社の第1回実行委員会議を開催し、各社へCSRへの理解を推し進めました。「新菱冷熱CSRレポート2015」では、主なグループ会社の活動についても報告いたします。

生産性の向上に向けて

日本の建設業は、高い技術力に加え、多数の企業が高度に調整し合うことで、大規模な建設物をつくり上げる素晴らしい産業です。しかし、社会状況の変化によって業界としての課題を抱えるようになってきたと感じています。課題とは、たとえば材料や労務費の高騰であり、就労人口の減少や熟練工の不足などです。

これらの難問に対峙するには、建設業界における生産性を飛躍的に向上させなくてはならないと

社是



この社是は、創業者、故 加賀美勝会長が信念としていた人生観・事業観を表現したものです。新菱冷熱はこの精神を実業の世界で具現化するために創設されました。この3カ条は新菱冷熱の原点であり、社員が考えるとき、決断するとき、行動するとき、すべてにおいてその根本となります。

新菱冷熱CSR宣言

われわれ新菱冷熱は、経営ビジョンのもと、
次の3つの取り組みを宣言し、環境創造企業に進化します。

- 1 先端的な生産手段を駆使した新たな業務モデルによる、高品質・省資源・省エネルギーな「ものづくり」と、快適で最適なライフサイクルマネジメントを実現させた独自の「ワンストップサービス」を提供します。
- 2 これらの技術をグローバルに展開し、地球温暖化防止、エネルギーの安全・安心で有効な利用という社会的課題の解決に取り組んでいきます。
- 3 そして、すべての事業活動の基盤となる透明性の高い経営と働きやすい企業風土の醸成に取り組めます。

考えています。それに対する取り組みとして、新菱冷熱は、独自の業務モデル「新菱サプライチェーンシステム」の構築を進めております。BIM (Building Information Modeling) データの構築と集中化の取り組みについては、前号のCSRレポートに続いて、本号でもご報告いたします。

東日本大震災からの復興支援

2015年度は、東日本大震災からの復興に関わる仕事に携わることができました。特集には、仙台南の杜水族館と女川町温泉温浴施設について、新菱冷熱の事業を通じたCSR活動を掲載しています。復興のシンボリックな建設に、新菱冷熱の技術を生かすことができたことを大変うれしく思っています。新菱冷熱は東北にも営業拠点(東北支社)があり、復興への支援は、われわれにとっても強い思い入れのあるものです。

国際的な活動

新菱冷熱は、アジア・中東地域を中心に事業活動の場を広げており、海外の各拠点におけるスタッフとの連携力が強みになっています。

海外には日本と異なる文化・社会があり、そこで働く人々の生活事情もさまざまです。海外で良い仕事をし、国際社会に対して社会的責任を果たしていくためには、多様な国・人に対する理解が必要です。さまざまな事情に合わせ、人々が働きやすい環境を整備することも重要になってきます。海外現地法人では、一緒に働く人々を支えながら事業活動を行っています。その事例を特集で紹介します。

国際的な活動の視点から、またダイバーシティの取り組みとしても、外国の人々との交流機会を増やしています。新菱冷熱は、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」への参加を表明し、2014年度に参加企業として登録されました。人権・労働・環境・腐敗防止に関わる10原則を支持し、国際的にも社会的責任を果たすための活動を推進していきます。

働き方の改革に向けて

労働集約型産業である建設業においては、労働が長時間に及びやすいことが大きな問題になっています。この問題の解決は決して簡単ではありませんが、解決に向けた取り組みを進めなくてはなりません。ワークライフバランスの実現は、社会的責任を果たすものであり、事業活動においても重要です。ダイバーシティも同様に、これからの事業に必要な取り組みです。新菱冷熱は、これらを真剣に考え推進してまいります。今年度は、経験豊かな社員が活躍する機会を広げることや女性社員の活躍を推進すること、外国人に日本の建設業や文化を知ってもらう機会をつくることなど、さまざまな取り組みを行いました。

ステークホルダーの皆様へ

新菱冷熱およびグループ会社のCSR活動は始まったばかりですが、ステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう、社会的責任に関する国際規格であるISO26000に沿ってCSR活動を推進し、毎年CSRレポートを通じて活動を報告してまいります。

そして、環境創造企業として、正々堂々と誠実に、国際社会の信頼に応え、社会からの要請に自発的・積極的に取り組み、地球環境の保全と社会の持続的発展に貢献してまいります。

新菱冷熱はステークホルダーの皆様の声を反映しつつ、継続的にCSR活動に取り組むことが大切だと考えております。今後ともご支援、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

国連グローバル・コンパクトへの参画

2014年9月、新菱冷熱は、国連が提唱する国連グローバル・コンパクトに署名・参加しました。新菱冷熱は、国連グローバル・コンパクトにおける4分野10原則に沿った事業活動を推進していきます。

国連グローバル・コンパクトの趣旨に賛同する気持ちだけでなく、海外での技術提供にも力を注ぐ新菱冷熱にとって、国連グローバル・コンパクトへの参画は、国際社会から

信頼される企業に成長したいという気持ちの表明でもあります。CSRの骨子である、「さわやかな世界をつくる」ための活動は、世界に向けた活動にしたいと考えています。



Network Japan

国連グローバル・コンパクトの10原則

- **人権**
 - 原則1 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
 - 原則2 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
- **労働**
 - 原則3 企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、
 - 原則4 あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
 - 原則5 児童労働の実効的な廃止を支持し、
 - 原則6 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
- **環境**
 - 原則7 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
 - 原則8 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
 - 原則9 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
- **腐敗防止**
 - 原則10 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

目次

トップメッセージ	1
目次／編集方針	4

特集

特集1 BIMデータ構築・集中化の取り組み ～新菱サプライチェーン～	5
特集2 事業活動ハイライト	7

会社案内

会社概要／主な事業内容／業績の推移	11
組織図／沿革	12
事業ネットワークと施工実績	13

CSRマネジメント

経営ビジョン／CSR推進体系／新菱冷熱CSR宣言／ CSR推進体制	15
CSR重点課題と基本テーマ／CSR活動のPDCA	16
新菱冷熱の活動成果と今後の取り組み	17

CSR活動トピックス

組織統治	19
公正な事業慣行	21
環境／消費者課題	24
人権／労働慣行	27
教育／人材育成	30
コミュニティへの参画および発展	32

グループ会社のCSR活動

グループ各社の概要	34
グループ各社の主な取り組み	35
グループ各社のCSR活動トピックス	36
CSRへの取り組みに関する第三者意見	37
編集後記	38

編集方針

新菱冷熱およびグループ会社のCSR(企業の社会的責任)への取り組みについて、ステークホルダーの皆様にご理解を深めていただける報告書を目指しています。

対象期間

2015年度(2014年10月1日～2015年9月30日)を中心に、一部にはその前後を含みます。

報告対象範囲

新菱冷熱工業(株)および新菱グループの各社におけるCSR活動について報告しています。

参考にしたガイドラインや規格

- ISO26000
- GRI (Global Reporting Initiative)
- サステナビリティ レポーティング ガイドライン 第4版(G4)

発行年月

今回:2015年12月 次回:2016年12月(予定)

発行責任部署および連絡先

新菱冷熱工業株式会社
CSR推進室
TEL 03-3357-2151(大代表)
FAX 03-3357-4914

BIMデータ構築・集中化の取り組み～新菱サプライチェーン～

新菱サプライチェーンシステム構築の一環として、
BIM(Building Information Modeling)データの構築と集中化の取り組みを開始しました。
新菱冷熱はBIMデータの集中的な構築により、生産性の向上を目指していきます。

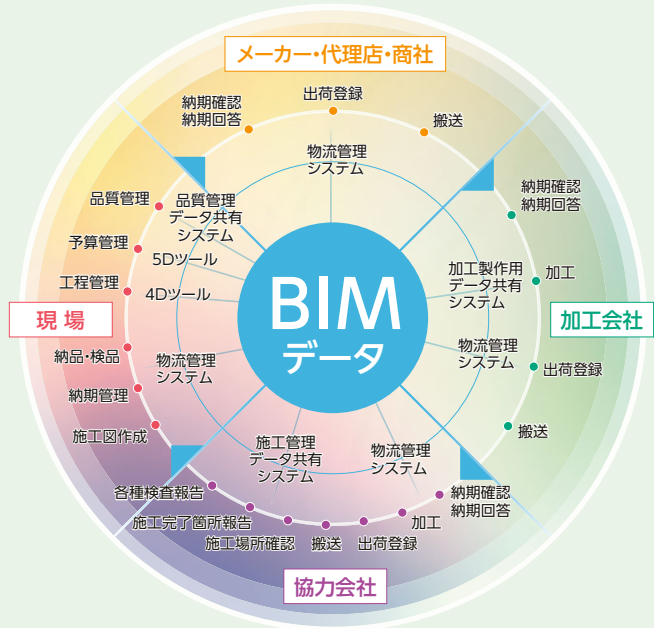
新菱サプライチェーンシステム

「新菱サプライチェーンシステム」は、新菱冷熱が進める、整流化された新しい業務モデルです。これによって、快適で最適なライフサイクルマネジメントを実現させた、独自の「ワンストップサービス」を提供したいと考えています。

新菱サプライチェーンシステムでは、現場や加工などの場面に応じた業務に対し、BIMデータを活用することで「管理」「デリバリー」などを的確・迅速に行っていきます。

「新菱BIM」やICT、そしてサプライヤーと連携したさまざまな取り組みは、熟練技能者の不足に対応するだけでなく、高品質・省資源・省エネルギーな「ものづくり」と、安全・安心な職場環境づくりにも貢献します。

●新菱サプライチェーンシステムのイメージ



新菱BIM

「新菱BIM」とは、独自に開発した3D-CAD[S-CAD]*と、建築や設備に必要な多くの情報を総合的に扱う、新たなソリューションです。新菱BIMの活用により生産性を向上させ、建物の企画から設計・施工・運用までのライフサイクルにおいて、お客様のさまざまなニーズに対応することが可能

となります。具体的な活動として「新菱サプライチェーンシステム」を構築し、お取引先の協力を得て、高品質で生産性の高い現場業務を実現していきます。

*3次元の施工図の作成やレビュー、施工方法のシミュレーション、配管時の干渉チェック、静圧・揚程計算、材料集計などの機能を備えるCADソフトウェア

支援業務集中化による 社会貢献

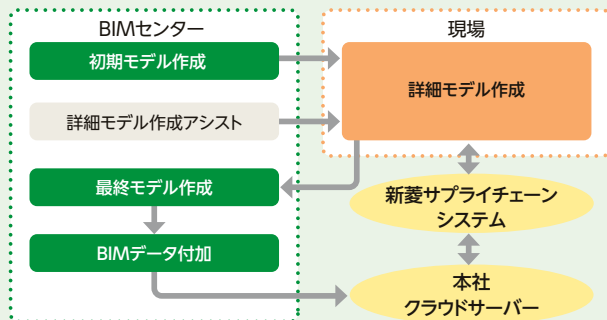
- 施工業務の生産性向上を実現し、少子高齢化社会に対応します。
- 施工業務の生産性向上を実現し、高品質・省資源・省エネルギーなものづくりを実現します。またその結果として、CO₂排出量削減に貢献します。
- 高精度なBIMモデルを構築し、それを運用することで、お客様の最適なライフサイクルマネジメントを実現します。
- BIM構築業務の集中化・後方支援化により、より良い職場環境を実現します。

BIMセンターによる 支援業務の集中化とは

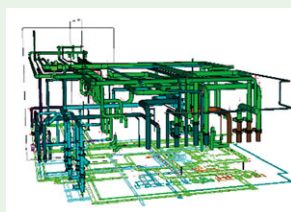
新菱サプライチェーンの根幹であるBIMデータを高精度に素早く構築するために、専門部署であるBIMセンターを設立し、そこで施工図の初期モデル作成からBIMデータ構築までの業務の集中化を図ります。現状の現場の業務には、安全・品質・工程・労務管理をはじめとして、施工計画やコスト検討など、膨大な作業があり、その中で施工図を作成しています。しかし、技量の差や、ピーク時に大幅な変更などの対応ができない、といった問題を抱えており、それが完成度のばらつきにつながり、結果として施工品質に影響してしまいます。そこで新菱冷熱は、施工図作成作業からBIMデータ構築までの作業を後方に集約することで、品質を保持しながら、作業の効率化を図ります。

●BIMセンターの業務モデル

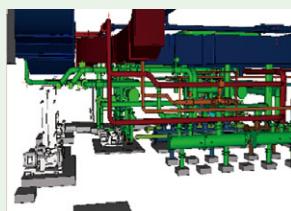
まず設計図をベースとして初期施工図を作成し、現場と調整しながら詳細モデルへと仕上げていきます。さらにサプライチェーン運用に必要な情報を付加したBIMデータを構築します。



●BIMセンターが提供するモデルの変遷



初期モデルのイメージ



最終モデルのイメージ

- 付加するBIMデータの例
- 属性データ付加
 - 施工シミュレーション
 - 加工情報(アイソメ図等)
 - 技術計算
 - ……等

2015年度の 主な取り組み

BIMデータ構築の専門部署である「BIMセンター」による、業務集中化に向けた取り組みを強化しました。さらに全国の主要現場に対応する人材確保のため、グローバル展開も開始しました。

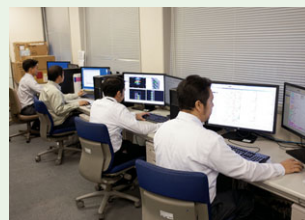
●BIMセンターの体制強化



BIMセンター

2014年4月、S-CAD専門オペレータおよび豊富な現場経験と高い技術力を備えた技術指導員で構成するBIMセンターが発足。現在までに、同センターではBIMデータ構築作業を実施するほか、S-CADの機能強化およびBIM関連の人材育成を行っています。

●海外展開



BIMセンターで勤務する新菱フィリピンの社員

BIMセンターには、新菱フィリピンの技術者4名が勤務しています。これは海外事業拡大に向けた人的基盤の構築を目的としており、今後はほかの海外拠点への展開も視野に入れていきます。

新菱サプライチェーンの 普及に向けた人材育成

構築したBIMデータを新菱サプライチェーンとして有効に活用するためには専門的な技術が必要です。現在、若手社員を中心に、BIM関連の専門技術を習得し、現場で実践できる人材の育成を行っています。

●新入社員への施工図教育

現場の即戦力となるよう、BIMの基礎知識および施工図の描き方を3カ月間にわたり教育しています。

●BIMマネージャー教育

BIMを活用して、適切な現場運営と調整ができる「BIMマネージャー」の育成を開始しました。



BIMマネージャー教育

事業活動ハイライト

新菱冷熱は、事業活動を通じて社会に貢献していきたいと考えています。
事業活動ハイライトでは、今年度の主だった事業を通じたCSR活動をご紹介します。



東京

虎ノ門ヒルズ

虎ノ門ヒルズがその一角を占める環状第二号線は、国家戦略特区として臨海地域と都心を結ぶ大動脈で、2020年東京オリンピック・パラリンピックでも大きな役割を果たすものです。

立体道路制度を市街地再開発事業に活用し、幹線道路と建築物を一体的に整備した本事業は、羽田空港とも近いことから、国際ビジネスセンターを形成するための先駆的なプロジェクトとして進められました。

新菱冷熱はJV(共同企業体:ジョイント・ベンチャー)の幹事会社として空調設備の施工を担当し、森ビル株式会

建物概要	正式名称：環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区(虎ノ門ヒルズ)
	オープン：2014年6月11日
	延床面積：244,360m ²
	建物用途：事務所、住宅、ホテル、カンファレンス、店舗、駐車場ほか

社様が取り組んでいる次世代空調設備「LOBAS熱源^{*1}・空調システム^{*2}」の構築に関わりました。当建物は環境性能評価CASBEEにおいて、最高ランクSを取得しています。

- ^{*1} 熱源水温度を通常より緩和することで、ターボ冷凍機の高効率運転を実現するシステム。高効率大深度温度成層型蓄熱層により、深夜電力の活用も可能とする
- ^{*2} 中温冷温水を利用した潜熱顕熱分離空調システム



虎ノ門ヒルズ(エントランス付近)

プロジェクトを通して

都市環境事業部 技術三部 技術三課
現場代理人 専任課長 半田 勇一^{*}(写真右)
課長 大槻 和彦^{*}(写真左)



社内最大規模のプロジェクトに現場代理人として携わることができました。テレビなどで放映されることもあるランドマーク的な建築であるため、工事に関わった社員からは「充実感や達成感を得た」「誇らしい」という声が聞かれます。

52階建ての高層建築で、複雑な建物形状が特徴です。とくに屋上の機械置場の鉄骨は複雑で施工難易度の高い物件でした。それでも、大きな事故・災害がなく、無事に完成することができた理由は、大勢の社員が力を合わせて現場を進めたこと、中央研究所の技術協力やしっかりした社内施工支援体制(社内中間検査7回実施)などがあったことだと思っています。

また、協力会社の皆様の全面的な支援と、お客様・設計監理会社様、施工に関係した各社の皆様のご指導・ご協力の賜物と感謝しております。

^{*} 竣工時の所属・役職



虎ノ門ヒルズ外観



仙台うみの杜水族館

2015年7月、仙台市に「仙台うみの杜水族館」が開館しました。仙台うみの杜水族館は、津波の被害を受けた仙台において、震災復興のシンボルといえる施設です。

水族館には、津波発生時の一時避難場所として、屋上に避難空間を確保しています。また、水槽を無蓋にしたり、自然光を取り入れるトップライトを設けたりすることにより、自然により近い展示になっています。

80年以上の歴史のあったマリニピア松島水族館で飼育していた生きもののほとんどを引き継いで展示しています。

新菱冷熱は、得意とする飼育施設の施工を担当しました。海水の回収再利用、密閉式ろ過機、オゾン処理、電



自然光で輝く2万尾のマイワシ



大水槽「いのちきらめくうみ」

解処理などの飼育設備一式を施工しています。内陸型の水族館であることから、海水の使用量を抑えながら水質・透明度を維持できるよう工夫するなど、これまでの水族館施工のノウハウを駆使し、低コスト化を図りながらも、復興のシンボルとしてふさわしい施設を実現しました。

建物概要	正式名称：仙台うみの杜水族館
	オープン：2015年7月1日
	延床面積：約9,900m ²
	建物用途：水族館



女川町温泉温浴施設

女川町温泉温浴施設は、東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた女川町で、震災復興の一環として建設が進められてきました。世界的な建築家・坂茂氏の設計による駅舎を併設した温浴施設であり、羽を広げたウミネコをイメージした屋根が特徴的な建物となっています。

新菱冷熱は、空調のほかに温浴施設用ろ過設備、温泉用設備などを施工しました。東北に営業拠点のある新菱冷熱にとっても、震災復興のシンボリック施設です。今後も、復興建設の事業に積極的に参画し、一日も早い復興に貢献していきたいと考えています。

建物概要	正式名称：女川町温泉温浴施設 (女川温泉ゆぽぽ)
	オープン：2015年3月22日
	延床面積：899.51m ²
	建物用途：温浴施設

浴室



休憩室の壁・天井部



施設外観

海外プロジェクト



タイ

タイ協和バイオテクノロジーズ

ASEAN地域におけるアミノ酸市場の急速な拡大に伴い、協和発酵バイオ株式会社様が、最新の生産技術を導入したアミノ酸工場をタイに建設しました。アミノ酸のグローバル展開において重要な役割が期待されるこの工場では、アジアおよび世界各地へアミノ酸の供給が可能です。この工場には、菌株を培養、発酵、精製して、輸液や医療食用の高純度なアミノ酸を作り出す最新技術が導入されています。

タイ新菱は、本工場の建設にあたり、元請として、エンジニアリング・資材調達・施工・コミッションングの一括受注 (EPCC) をし、新菱冷熱のシンガポール支社・燃料エネルギー事業部・首都圏事業部・計装エンジニアリング事業部の海外協働プロジェクトを立ち上げ、施工にあたりました。

建物概要

正式名称：タイ協和バイオテクノロジーズ
 オープン：2015年4月9日
 延床面積：19,084m²
 建物用途：アミノ酸生産工場



建物外観

プロジェクト集合写真



雇用・生活・研修

海外プロジェクトでは、その国の人々と一緒にプロジェクトを完成させることを大切にしています。このプロジェクトに携わった人数は、スタッフ110人、作業員は1,000人を超えました。現地の人々の力を集め、働きやすい環境を整えることにも心を配りました。また、タイの大学からインターン研修生を受け入れるなど、技術交流も行いました。

●レイバーキャンプ(作業員用宿舎)の設置

本プロジェクトには、タイの人々が遠方からもたくさん参加していたため、現場から車で5分のところにレイバーキャンプを設置しました。なかには、家族と一緒に生活していた人もいました。タイ新菱では、ほかの現場でも、レイバーキャンプの整備を行っています。より良く働くための環境整備は、プロジェクトの成功に必要不可欠なものです。

●キャンティーン(食堂舎)の設置

タイ・フィリピン・マレーシア・日本の4カ国の人々が働いており、スタッフ向けにキャンティーンを設置しました。地元タイ人のコック・ホールスタッフなど10名程度がキャンティーンを切り盛りし、7~19時の間ならいつでもおいしいタイ料理を食べることができるように整えました。

●インターン研修生の受け入れ

タイの大学生2名をインターン研修生として受け入れました。技術系で建築を学ぶ2人は、プロジェクトを通じて一生懸命に勉強していました。



作業員



キャンティーン(食堂舎)



サイトオフィス(現場事業所)



レイバーキャンプ(作業員用宿舎) 警備員

プロジェクトを通して

プロジェクトダイレクター 燃料エネルギー事業部 部長 鍛冶 孝一※



タイの人々は、本当に真面目で協力的です。文化・習慣が異なるため意見が違ってしまいうこともありますが、時間をかけて説明し、話し合うことで、お互いに理解を深めることができました。

このプラントは、タイ人の方々が主体となってつくったものです。プロジェクトには、本当に多くのタイ人の方々に関わっていただきました。われわれは、お客様の意見をよく聞き、考えをくみとって、現地のスタッフに伝えただけです。一緒に仕事をして楽しかったし、私自身、勉強になりました。またこのメンバーで仕事がしたいと思っています。

このプラントから世界各地へ、人の生活に役立つアミノ酸が供給される。タイで、こうしたプラントの建設に関われたことがうれしいです。

※ 竣工時の所属・役職

会社概要

商号	新菱冷熱工業株式会社 SHINRYO CORPORATION
本社住所	東京都新宿区四谷二丁目4番地
電話	(03) 3357-2151 (大代表)
設立	1956年(昭和31年)2月23日
代表取締役社長	加賀美 猛
従業員数	2,052名(単体) (2015年9月末現在) 4,974名(グループ会社を含む)
資本金	35億円

主なグループ会社

新菱テクニカルサービス株式会社／株式会社城口研究所／大栄電気株式会社／
新菱工業株式会社／株式会社秋田キャッスルホテル／株式会社グローバルスタッフ／
SHINRYO (HONG KONG) LTD／TAIWAN SHINRYO CO., LTD.／
SHINRYO (PHILIPPINES) COMPANY, INC.／Thai Shinryo Limited／
SHINRYO (MALAYSIA) SDN. BHD.／SHINRYO SINGAPORE PTE LTD.／
PT. SHINRYO INDONESIA／SHINRYO VIETNAM CORPORATION

主な事業内容

● 各種設備の設計・施工

空調設備	冷暖房および換気設備／産業空調換気設備／恒温恒湿設備／ 環境試験設備／クリーンルーム／バイオクリーンルーム／ドライ ールーム／氷蓄熱設備
給排水衛生設備	給水設備／給湯設備／ガス設備／排水設備／厨房設備
自動制御設備	集中管理システム／計装設備
防災設備	火災報知設備／排煙設備／避難誘導設備／屋内消火栓・屋外消 火栓・スプリンクラー・二酸化炭素その他各種消火設備
電気設備	屋内配線設備／弱電設備／受変電設備／送配電設備／自家発 電設備
都市設備	地域冷暖房設備／廃棄物空気輸送設備／特定電気事業設備
情報管理システム	各種都市プラント・産業設備・ビルなどの制御および施設管理シ ステム
コージェネレーション設備	発電設備／排熱利用設備
燃料エネルギー設備	原子力・火力発電所・燃料サイクル関連施設および各種試験研究の プロセスならびに換気空調設備／特殊フィルタ装置／廃棄物処理 装置
環境衛生設備	上水道設備／下水道設備／中水道設備／汚水処理設備／産業 排水処理設備／ごみ処理・集塵処理設備
プラント設備	薬品・食品プラント設備／石油関連プラント設備／その他プラント 設備
低温設備	冷凍冷蔵設備／超低温および精密温調冷却装置
特殊設備	太陽エネルギー利用設備／水族館設備／栽培漁業設備／プー ル設備／バイオハザード設備／超清浄空間設備／人工気象室／ 人工降雪設備

● 建築の設計・施工

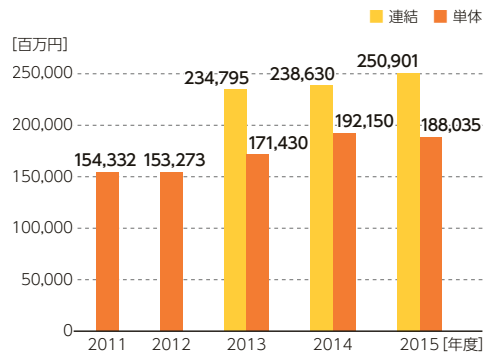
クリーンルーム建屋／プラント建屋／内装工事／設備工事に付帯する建築工事／一般建築設備

● 空調機器類販売

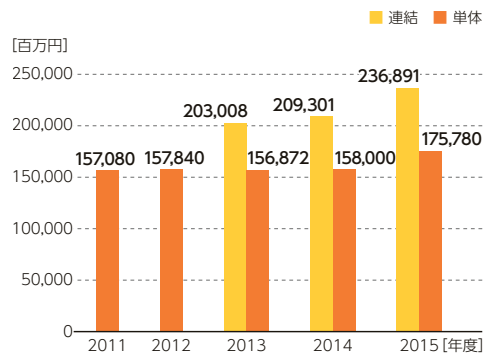
空調機・冷熱製品／換気送風機／衛生陶器／その他空調機関連商品

業績の推移

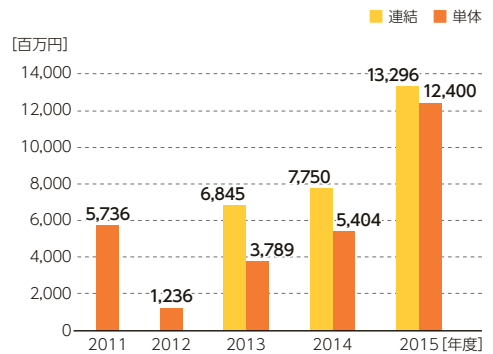
● 受注高



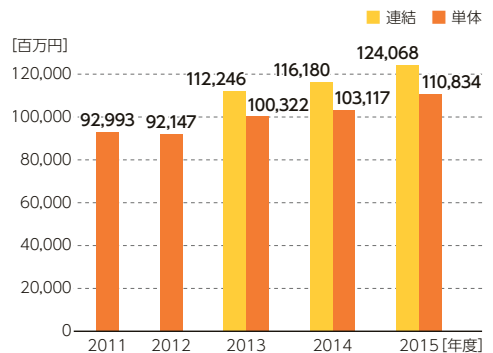
● 完成工事高



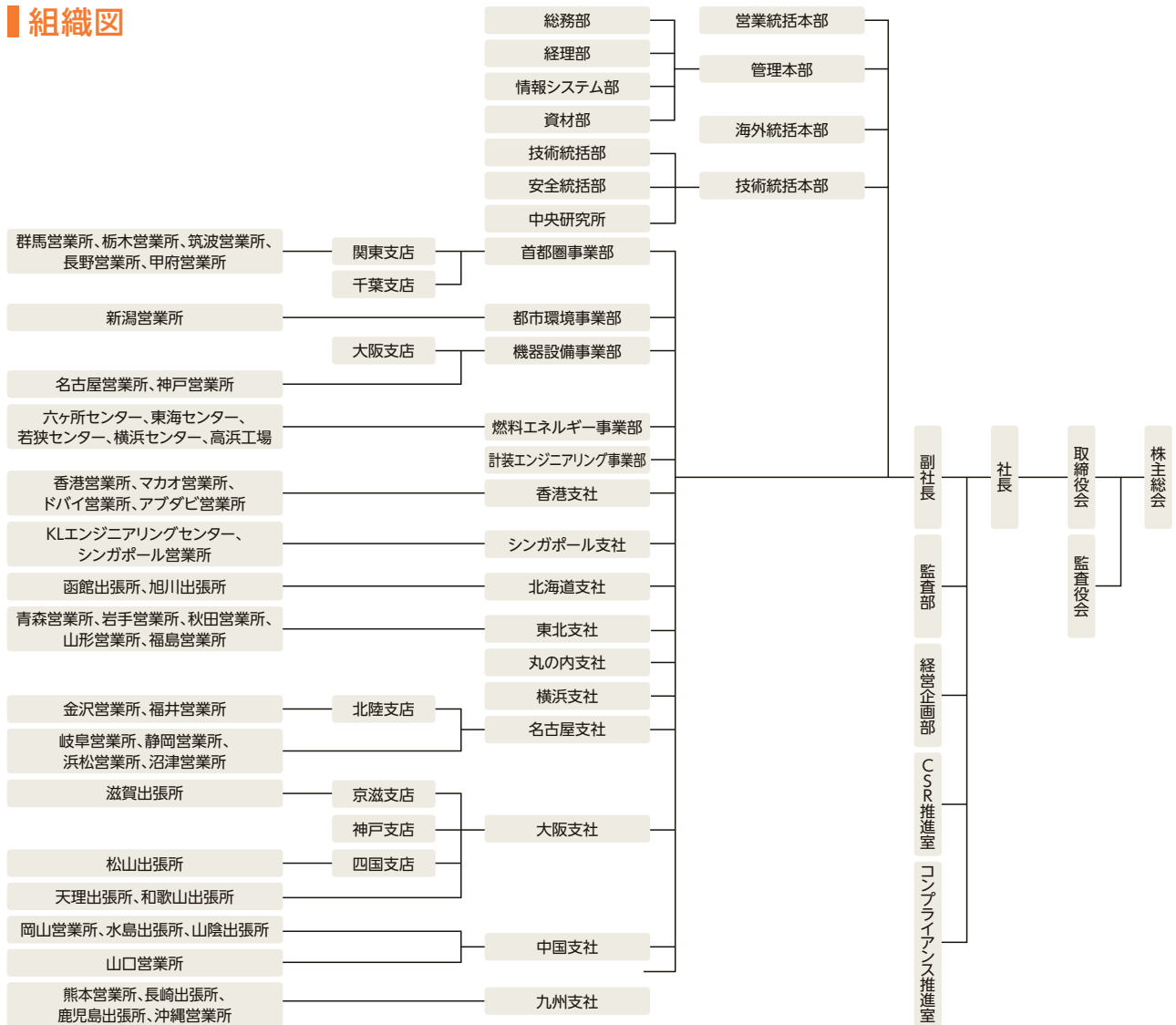
● 経常利益



● 自己資本



組織図

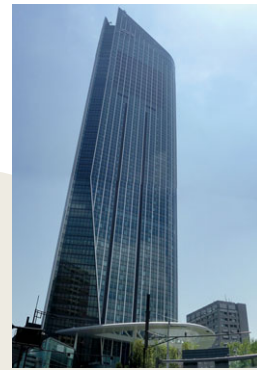


沿革

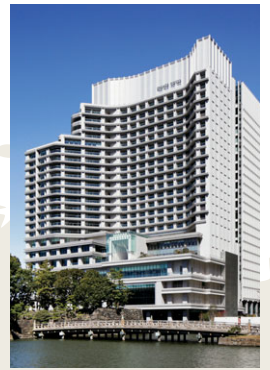
- | | | | |
|-------|--|-------|------------------------------|
| 1956年 | 本社を東京都港区西久保町45番地に置き、資本金500万円をもって創業 | 1994年 | インドネシアに現地法人設立(新菱インドネシア) |
| 1957年 | 当時日本最大のビルといわれた新大手町ビルを受注し、会社の基礎を確立 | 1998年 | ISO9000s認証取得開始 |
| 1958年 | 大阪営業所(現 大阪支社)を開設 | 2001年 | ISO14001認証取得 |
| 1960年 | 本社を東京都新宿区四谷二丁目4番地の現在地に移転 | | シンガポールに現地法人設立(新菱シンガポール) |
| 1961年 | 名古屋営業所(現 名古屋支社)を開設 | 2005年 | ドバイ営業所を開設 |
| 1964年 | 事業部制を採用 | | マカオ営業所を開設 |
| | 工事部(現 首都圏事業部)、機器部(現 機器設備事業部)を開設 | 2007年 | ベトナムに現地法人設立(新菱ベトナム) |
| 1966年 | 広島営業所(現 中国支社)を開設 | | アブダビ営業所を開設 |
| | 横浜営業所(現 横浜支社)を開設 | 2010年 | 管理本部を開設 |
| 1967年 | 仙台営業所(現 東北支社)を開設 | | 首都圏事業本部(現 首都圏事業部、都市環境事業部)を開設 |
| 1969年 | 福岡営業所(現 九州支社)を開設 | | 計装エンジニアリング事業部を開設 |
| 1970年 | 業界初の技術研究所(現 中央研究所)を設立 | 2011年 | 執行役員制度を採用 |
| | 原子力部(現 燃料エネルギー事業部)を開設し、原子力利用のエネルギープラント界へ本格進出 | | 高浜工場を新設し、舞鶴工場の機能を移管 |
| 1972年 | 海外工事に本格進出 | 2013年 | 技術統括本部を開設 |
| 1973年 | 都市設備部(現 都市環境事業部)を開設し、都市計画・都市再開発などの大規模プロジェクトに対処できる体制を敷く | | 首都圏事業部を開設 |
| | 舞鶴工場を開設 | | 都市環境事業部を開設 |
| 1977年 | 香港営業所を開設し、海外展開の本拠地とする | | 機器設備事業部を開設 |
| 1978年 | 外国部(現 香港支社、シンガポール支社)を開設し、海外展開を事業の大きな柱とする | | 横浜支社を開設 |
| 1979年 | 建設省(現 国土交通省)、管工事登録格付第一位 | | 香港支社を開設 |
| | 香港に現地法人設立(新菱香港) | | シンガポール支社を開設 |
| 1982年 | マレーシアに現地法人設立(新菱マレーシア) | 2014年 | 営業統括本部を開設 |
| 1983年 | シンガポール営業所を開設 | | CSR推進室を開設 |
| 1986年 | タイに現地法人設立(タイ新菱) | | コンプライアンス推進室を開設 |
| 1987年 | 台湾に現地法人設立(台湾新菱) | | 丸の内支社を開設 |
| 1990年 | 筑波研究学園都市に中央研究所を開設 | | 北海道支社を開設 |
| | フィリピンに現地法人設立(新菱フィリピン) | 2015年 | 総務部を開設 |
| 1992年 | 技術統括部を開設、安全統括部を開設 | | 経理部を開設 |
| | | | 情報システム部を開設 |
| | | | 海外統括本部を開設 |

これからも「さわやか」を世界中に

新菱冷熱は、日本全国の拠点から、人にも環境にもやさしい空調・給排水衛生・電気設備、最先端の製品を生み出す生産環境を構築する確かな技術力、街・地域にやさしい地域冷暖房システム、安心安全なプラント設備技術、保守管理や省エネルギーを支援する総合情報システムを提供してきました。また、海外では、アジア・中東を中心に拠点を設け、新菱冷熱の「さわやか」を世界にお届けしています。



虎ノ門ヒルズ
(東京都港区)



パレスホテル東京・パレスビル
(東京都千代田区)

海外ネットワーク (16拠点)

- 支社 (2拠点)
- 営業所・センター (6拠点)
- 現地法人 (8拠点)



東京スカイツリー®地区・地域冷暖房
(東京都墨田区)



みなとみらい21中央地区・地域冷暖房
(神奈川県横浜市)

● ドバイ営業所
● アブダビ営業所

● 香港支社
● 台湾新菱
● 香港営業所
● マカオ営業所

● タイ新菱

● 新菱フィリピン

● 新菱ベトナム

● KLエンジニアリングセンター
● 新菱マレーシア

● シンガポール支社
● シンガポール営業所
● 新菱シンガポール

● 新菱インドネシア



タイ協和バイオテクノロジーズ
(タイ)



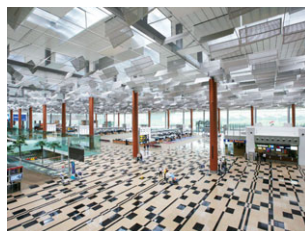
ペトロナス パナピサン(マラッカ)
コージェネレーションプラント(マレーシア)



香港地下鉄
(香港)



ディスカバリーガーデン地域冷房
プラント(ドバイ)



チャンギ国際空港ターミナル3(シンガポール)
"Courtesy of Civil Aviation
Authority of Singapore"



ザ・ヴェネチアン®・マカオ・リゾート・ホテル
(マカオ)



中之島フェスティバルタワー
(大阪府大阪市)



横浜ランドマークタワー
(神奈川県横浜市)



大手町地区・丸の内一丁目地区他・地域冷暖房
(東京都千代田区)



国内ネットワーク (53拠点)

- 本社・支社・研究所 (10拠点)
- 支店・営業所・出張所・工場等 (43拠点)



ヤフコ本社中央研究所基礎研究棟
(東京都国立市)



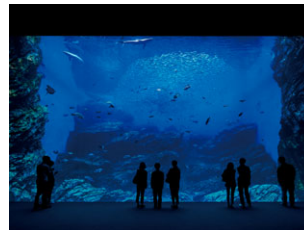
スタンレー電気株式会社
秦野製作所1号館 (神奈川県秦野市)



関東グリコ北本ファクトリー
(埼玉県北本市)



広島大学病院診療棟
(広島県広島市)



仙台うみの杜水族館 (宮城県仙台市)
※写真は大水槽「いのちきらめくうみ」



本田技研工業株式会社和光ビル
(埼玉県和光市)



沖縄科学技術大学院大学
(沖縄県国頭郡)



札幌競馬場
(北海道札幌市)



シャープ株式会社亀山工場
(三重県亀山市)

■ 経営ビジョン

さわやかな世界をつくる

さわやかな**環境**を創造する

→ 快適で地球に優しい空間創造

さわやかな**経営**を推進する

→ 法令遵守と透明性の高い経営

さわやかな**風土**を醸成する

→ 人を育む働きやすい企業風土

新菱冷熱は、経営ビジョンに沿った事業活動を行っています。経営ビジョンとは新菱冷熱が目指し続けるものであり、こうした活動が社会の持続的発展への貢献につながっていくと考えています。

■ CSR推進体系

社会の持続的発展に貢献



■ 新菱冷熱CSR宣言

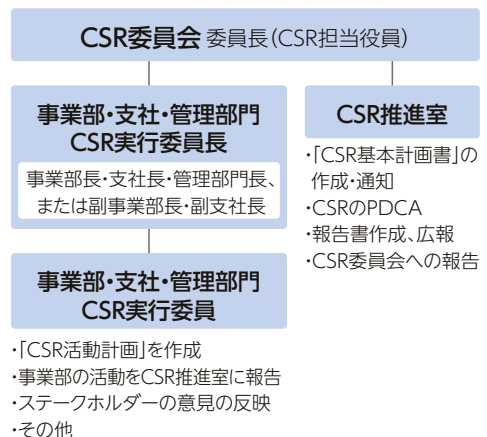
われわれ新菱冷熱は、経営ビジョンのもと、次の3つの取り組みを宣言し、環境創造企業に進化します。

- 1 先端的な生産手段を駆使した新たな業務モデルによる、高品質・省資源・省エネルギーな「ものづくり」と、快適で最適なライフサイクルマネジメントを実現させた独自の「ワンストップサービス」を提供します。
- 2 これらの技術をグローバルに展開し、地球温暖化防止、エネルギーの安全・安心で有効な利用という社会的課題の解決に取り組んでいきます。
- 3 そして、すべての事業活動の基盤となる透明性の高い経営と働きやすい企業風土の醸成に取り組みます。

新菱冷熱CSR宣言は、中長期事業計画(3カ年計画)を包括した内容になっています。事業の継続・成長とともに社会的責任を果たすため、必ず達成することを目指すものです。また、時代的・社会的背景の変化に応じて新たに策定し、実行戦略の指針としていくものです。

■ CSR推進体制

経営ビジョンである「さわやかな世界をつくる」の実現を目指し、下図のようなCSR担当役員を委員長とするCSR委員会を設置しています。CSR推進室が中心となり、各部署から選ばれたCSR実行委員とともに活動を推進しています。



CSR重点課題と基本テーマ

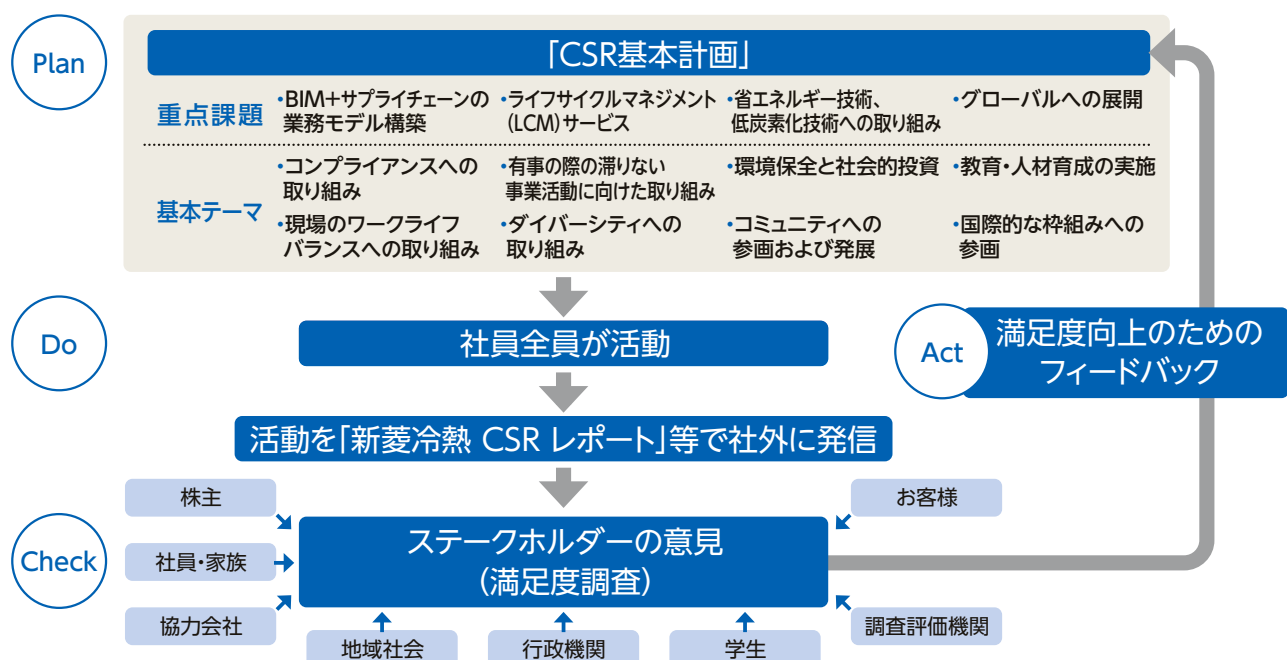
CSR重点課題 社会への新たな価値提供

- | | | | |
|--|---|--|---|
| <p>1 BIM+サプライチェーンの業務モデル構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 3D-CAD化の推進 モジュール化や調達・デリバリー方法の改革による施工サプライチェーンの構築 施工の効率化、建築資源・環境負荷の低減 | <p>2 ライフサイクルマネジメント(LCM)サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> BIM、コミッションング、CFD、FMの技術を融合し、独自のLCMサービスを提供 | <p>3 省エネルギー技術、低炭素化技術への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー関連技術、低炭素化技術の開発と提供 エネルギー需給者の双方に、最適化および面的利用技術を提供 | <p>4 グローバルへの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外事業拡大に向けた人的基盤の整備 |
|--|---|--|---|

CSR基本テーマ

- | | | | |
|--|--|--|--|
| <p>1 コンプライアンスへの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の機会を多様化し、継続して実施 相談窓口「ヘルプライン」の利用を促進 コンプライアンス体制のPDCAを構築 CSR調達の推進 | <p>2 有事の際の滞りない事業活動に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> BCPの再構築(危機管理対策規程の見直しを含む) 協力会社を含む有事への対応 周辺地域への災害対策関連製品の提供 | <p>3 環境保全と社会的投資</p> <ul style="list-style-type: none"> 施工におけるCO₂削減の取り組み 環境保全活動への助成 | <p>4 教育・人材育成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業情報管理および個人情報保護 社員、協力会社に対する研修制度の充実 |
| <p>5 現場のワークライフバランスへの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務モデルの改革による効率化の実現 後方支援の充実による現場業務量の低減 休暇制度の実効性の向上 | <p>6 ダイバーシティへの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 再雇用制度の導入 育児時短制度の利用期間の延長 | <p>7 コミュニティへの参画および発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア休暇制度の導入 地方自治体や地域などとの防災協定締結による地域への貢献 | <p>8 国際的な枠組みへの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> 国連グローバル・コンパクト ケアリングカンパニースキーム(香港) |

CSR活動のPDCA



■ 新菱冷熱の活動成果と今後の取り組み

CSRの取り組み項目を「重点課題 社会への新たな価値提供」「基本テーマおよびコーポレート・ガバナンス」のもとに設定しています。

ISO26000中核主題との対照						
組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な事業慣行	消費者課題	コミュニティ
			●	●	●	
		●	●	●		
			●	●	●	
			●	●		
			●	●		
		●	●			●

●	●	●	●	●	●	●
●				●		
	●	●				
●				●		
		●		●		
●				●		
●			●	●		
			●	●	●	
		●				●
		●			●	●
		●			●	
	●					
		●				
	●					
						●
●	●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●	●

課題		
重点課題 社会への新たな価値提供		
1	BIM+サプライチェーンの業務モデル構築	3次元CAD[S-CAD]の活用による施工の合理化 新たな「業務モデル」の構築
2	ライフサイクルマネジメント(LCM)サービス	LCMサービス体制の整備
3	省エネルギー技術、低炭素化技術への取り組み	エネルギー関連・低炭素化技術の研究開発と活用
		空気環境改善技術の研究開発と活用
		原子力関連:廃棄物処理・廃炉・除染への取り組み
4	グローバルへの展開	海外事業の拡大に向けた人的基盤の構築
基本テーマおよびコーポレート・ガバナンス		
-	コーポレート・ガバナンス	内部統制、業務監査
1	コンプライアンスへの取り組み	コンプライアンス教育
		相談窓口「ヘルプライン」
		反社会的勢力への対応
		CSR調達
		情報セキュリティ管理
2	有事の際の滞りない事業活動に向けた取り組み	BCPの策定、推進
3	環境保全と社会的投資	環境マネジメントシステム
		現場におけるCO ₂ 排出量削減の見える化
		車両排気ガス排出量の低減
		石綿・有害物質等の適正管理と処理
4	教育・人材育成の実施	現場力向上と管理職のスキル向上策の推進 トラブル情報の展開
5	現場のワークライフバランスへの取り組み	業務モデル改革による効率化
		後方支援による現場業務量低減
		各種休暇制度の実効性向上
		「こころオンライン」
6	ダイバーシティへの取り組み	女性社員の活躍促進施策
		経験豊かな社員の活躍促進制度
		障がい者雇用
7	コミュニティへの参画および発展	地域社会とのかかわり
8	国際的な枠組みへの参画	国連グローバル・コンパクト
		ケアリングカンパニースキーム

<自己評価による取り組みの達成度> ○：実施して成果が得られたもの △：実施したがさらに成果を上げる必要があるもの ×：実施しなかったもの

※2015年度(2014年10月1日～2015年9月30日)、2016年度(2015年10月1日～2016年9月30日)

2015年度の成果		達成度	参照ページ	2016年度の取り組み
取り組み	成果			
サプライチェーンプロジェクトによる新菱スタンダードの実用・検証	<ul style="list-style-type: none"> ・全社統一された施工品質を目指し、新菱スタンダード機能のS-CADへの組み込みを開始 ・アイソメ図作成等の新機能をS-CADに搭載する検討を開始 	○	特集1 5-6	BIMデータの集中作成拡大とBIMデータの有効活用による新たな業務モデルの構築
	BIMセンターを拡大し、BIMデータの集中作成を開始			
グループ会社と一体となったLCMサービス体制の強化	リニューアル工事・保守管理サービス事業会社と、首都圏新築・リニューアル・メンテナンス事業会社の合併により、LCMサービス体制を強化	○		グループ会社と一体となったLCMサービス体制の強化継続
各種省エネルギー技術・低炭素化技術の開発・販売・導入を促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルムアルデヒド除去システムの販売体制の構築 ・自社ビル省エネeco化プロジェクトの継続対策と運用 	○	24	各種省エネルギー技術・低炭素化技術の開発・販売・導入を継続促進
海外現地法人との技術交流・人的交流の促進	新菱フィリピンのエンジニア13名の日本における技術実習の開始	○	6、29	現地法人との技術交流・人的交流の促進継続
内部統制システムの継続的な見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・内部統制システムの定義づけと実施 ・内部監査規程の改訂 ・会社法改正に係る内部統制システム基本方針見直しの実施 	○	19	内部統制システムの継続的な見直し
<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス体制の再構築 ・海外版コンプライアンス・ガイダンスの作成 ・遵守徹底教育を継続実施(100%実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部委員会提言を受けての改善対応 ・コンプライアンス ガイドラインの全面改訂 ・コンプライアンス ガイドライン別冊(関係法令の解説)の作成 ・役員員へのコンプライアンス教育の実施および誓約書の受領(100%実施) ・独禁法教育の国内営業職への実施(100%実施) 	○	21-23	<ul style="list-style-type: none"> ・海外対応ガイドラインの策定と展開 ・コンプライアンス事例集の作成 ・コンプライアンスに関するe-ラーニングの実施 ・独禁法教育の継続実施
情報セキュリティ教育の継続実施と効果の検証	全社員に情報セキュリティの教育実施(e-ラーニング)	○	20	情報セキュリティ教育の継続実施と効果の検証
BCP計画の策定、総合訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・全社安否確認訓練の実施(年3回) ・BCP基本計画書および行動計画書の検討 	△	20	BCP計画の策定および訓練の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001環境マネジメントシステムの継続運用 ・CO₂排出削減量を、2014年度比5%増 ・環境配慮型車両の社有車採用率20% ・適正な除去、管理、処理の継続実施(100%実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001環境マネジメントシステムの継続運用 ・CO₂排出削減量を、2014年度比11%減 ・環境配慮型車両の社有車採用率17% ・適正な除去、管理、処理の継続実施(100%実施) ・生態系保全活動・啓発プログラム「環境ルネサンス活動」の開始 	△	24-26	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001環境マネジメントシステムの継続運用 ・CO₂排出削減量を、2015年度比5%増 ・環境配慮型車両の社有車採用率20% ・適正な除去、管理、処理の継続実施(100%実施)
各種教育制度、各部OJTの継続実施および改善	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育研修規程」を定め、社内教育制度を整理・見直し ・新菱独自のBIMマネージャー教育の実施 	○	特集1 5-6 30-31	全社教育計画を踏まえた部署別教育計画書を策定し、事業部・支社単位による実効ある教育を推進
サプライチェーンプロジェクト「新菱スタンダード」導入による業務モデル改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 後方支援業務の洗い出しを開始 	△	特集1 5-6	後方支援による現場業務量低減の推進
	各種休暇制度の利用率向上に向けた、推進活動実施	○	27	各種休暇制度の利用率向上に向けた、推進活動継続
女性、高齢者を含むすべての社員の活躍を促す制度を継続検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティへの理解促進、部長以上の役員員への教育の実施 ・社内風土醸成のための広報活動の実施 ・新菱冷熱の安全基準を満たす女性用安全用品の製作 ・役職定年制度の廃止による社員の活躍促進 	○	28-29	女性、高齢者を含むすべての社員の活躍を促すための制度および社内風土醸成のための施策の検討・実施
国内・海外での地域清掃活動、文化支援を継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・大学への講師派遣 ・事業部、支社によるボランティア活動の実施 	○	32-33	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性にかかわる活動の検討と実施 ・事業部、支社独自の地域とのかかわり方の検討と実施推進
国連グローバル・コンパクトでの分科会活動に参画	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン防災・減災(DRR)分科会への参加 ・企業市民協議会(CBCC)への入会 	○	3、32	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン分科会、CBCC活動への参加取り組みの強化 ・新たな枠組みへの参画検討

組織統治

CSR宣言に則り、すべての事業活動の基盤となる透明性の高い経営と働きやすい企業風土の醸成に取り組むとともに、経営の透明性を確保し、迅速な意思決定を行うためのコーポレート・ガバナンス体制および内部統制のしくみを整えています。

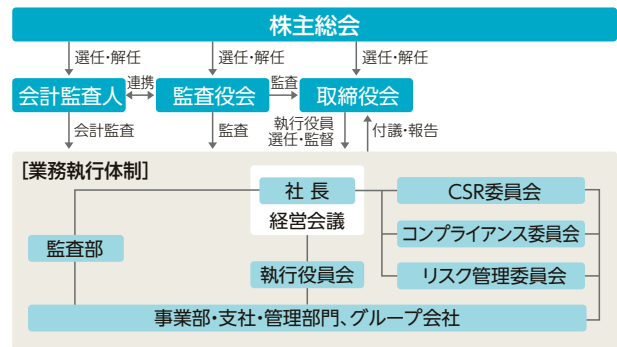
コーポレート・ガバナンス体制

取締役会では、会社法上規定される付議事項および取締役会規程で定めた付議基準・報告基準に基づく上程議案を審議します。経営会議では、取締役会への上程議案の審議に加えて、会社経営に関する重要事項を審議します。執行役員会では、執行役員による業務執行状況の報告と経営会議における決議事項の周知、経営会議審議事項の事前意見聴取などを行っています。監査部は、制度、組織、業務活動等の有効性および効率性、コンプライアンスの適合性等を検証します。また、国内外の事業所だけでなく、2013年からは工事現場の監査も実施しています。

コンプライアンス委員会では、委員会および各部署・グループ会社の統括責任者が連携をとり、企業倫理・法令遵守意識の

向上と徹底を図るとともに、相談窓口「ヘルプライン」に寄せられた相談・通報に対する方針決定、是正指示も実施しています。

●コーポレート・ガバナンス体制



内部統制

会社法において内部統制システム構築が義務づけられて以降、新菱冷熱では、適宜その見直しを行い、業務遂行における適法性の確保と、合理性および効率性の充実を図っています。

2015年5月1日付の会社法改正により、グループ会社(企業集団)の業務の適正を確保するために必要な体制の強化と、監査役監査体制に関する規定の充実化が求められたことに伴い、「内部統制システム基本方針」の見直しを行いました。

新菱冷熱の「内部統制システム基本方針」の概要(取締役会決議より抜粋)

1. 当社グループの役職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に関わる情報の保存及び管理に関する体制
3. 当社グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 当社グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 当社及びグループ会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
7. 当社グループの役職員またはこれらの者から報告を受けた者が当社監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

リスクマネジメント

■ リスク管理委員会

新菱冷熱では、経営に重大な影響を及ぼす可能性のある大型案件について、技術上・契約上などの重要リスクを抽出し、その対応策を協議するためのリスク管理委員会を定期的で開催しています。

■ BCP、協力会社を含めた有事対応

BCPへの取り組み

新菱冷熱は、大規模災害等の発生時においても事業活動を早期に再開するため、事業継続計画(BCP, Business Continuity Plan)を策定し、維持管理しています。「大規模災害や事件・事故が発生し、本社・事業部・支社等が被害を受けることで事業機能に支障が生じた場合、人命の安全確保を前提に、許容される事業活動水準を保ち、許容される時間内に事業を復旧する」ことを目的としています。平時においては被害を軽減させるための事前対策の実施、事業リソースの確保方法、ならびに発生時の対応方法や対応組織を規定するなど、BCPの実践力向上のための取り組みを進めています。

協力会社の皆様との連携体制

新菱冷熱は、主に地震災害等を想定した、協力会社の皆様との連携体制の整備と強化を進めています。

施工物件の一覧を整備し、個々の物件への対応を協力会社の皆様にご担当いただくことで、災害時の設備復旧等の対応をスムーズかつ効率的に行うことができる体制の構築を目指しています。

日常的な取り組み

大きな意味でのBCPの策定・実施とともに、社員・家族の安否確認訓練、自衛消防組織訓練、各事業所入居ビル主催の防災訓練への参



自衛消防隊担当者訓練

加など、各事業所における機能の維持に向けた取り組みを定期的実施しています。

有事に備えた対応

全社員への防災袋の配付に加え、災害用備蓄品の整備、本社ビルの非常用発電設備の設置、非常用衛星携帯電話の各拠点への配備など、事業継続のための対応を整えています。



全社員配付の防災袋



災害用備蓄倉庫

■ 情報セキュリティ体制の徹底

新菱冷熱は、お客様やお取引先の情報、個人情報など、さまざまな情報管理の徹底に努めています。「企業情報管理規程」により、各部門に情報管理責任者を定め、全社的な情報管理体制を整えています。また、「秘密情報漏洩防止のためのガイドライン」を策定し、営業・設計・現場施工等の各業務別の情報管理やセキュリティ管理を具体的に定め運用しています。

社員の教育としては、2013年から全社員を対象としたe-ラーニングでの情報セキュリティ教育を、定期的・反復的に実施しており、社員個人の意識向上に注力しています。



e-ラーニングによる情報セキュリティ教育

公正な事業慣行

新菱冷熱は、北陸新幹線の設備工事の入札に関し、2015年10月9日に、公正取引委員会から排除措置命令を受けました。新菱冷熱は、事態を厳粛かつ真摯に受け止め、独立した外部委員会からの提言に基づく具体的な再発防止策の実施と法令遵守の強化・徹底に取り組みます。新菱グループが目指すのは、誠実公正かつ適切な経営を実現し、新菱グループの事業に与えられた社会的責任を果たしていくことです。企業倫理・法令遵守を実践し、「さわやかな世界をつくる」企業として、すべてのステークホルダーの皆様から支持されるよう努めてまいります。

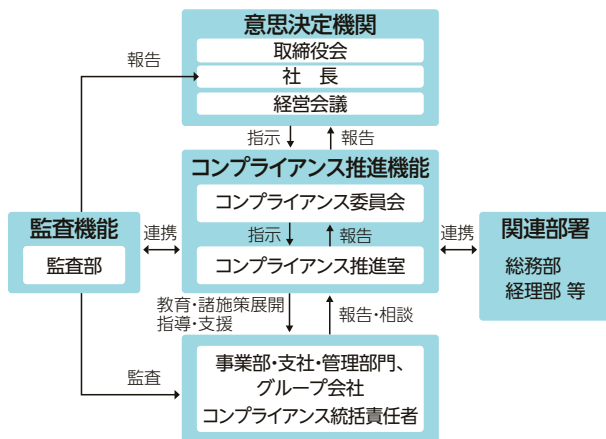
コンプライアンスの強化・徹底

新菱グループは、外部委員会からの提言を真摯に受け止め、コンプライアンスのいっそうの強化・徹底に全力を尽くしています。新菱グループの社是にある「正しからざることと与するな」を行動の原点に、グループの全役職員が法令遵守を実践してまいります。

コンプライアンス体制の再構築

2014年12月には、グループ会社を含めた体制を再構築しました。新たに「コンプライアンス推進室」を設置し、関連部署との連携を強化しました。

●コンプライアンス体制図



「コンプライアンス ガイドライン」の全面改訂

2015年4月には、新菱グループの全役職員が守らなければならない基本原則である「新菱グループ コンプライアンス ガイドライン」を全面改訂しました。ガイドラインは、社是、行動規範・行動基準を原点としたもので、日常業務を行

ううえでの判断基準となる、「行動規範・行動基準に関する具体的な遵守事項」を定めました。

発行から2015年7月にかけては、新菱冷熱の全役職員がガイドライン教育を受講し、コンプライアンス遵守を誓約しました。現在、国内グループ会社においても、教育と誓約を展開しています。



「新菱グループ コンプライアンス ガイドライン」

新菱グループ行動規範

新菱グループのすべての役職員は、社是および行動規範・行動基準により、コンプライアンスに関する基本的かつ共通の意識をもち、また会社に対する高い帰属意識のもとで、日常の業務において行動規範・行動基準を誠実に実践します。

新菱グループ行動規範

- 行動規範 1 お客様の立場にたってお客様の満足を追求します。
- 行動規範 2 株主様のために経営の効率化を追求します。
- 行動規範 3 家族にも誇れるような活気にあふれ、ゆとりのある職場にします。
- 行動規範 4 お取引先とともに、企業倫理・法令遵守を徹底し、公正・透明で自由な事業活動を行います。
- 行動規範 5 健全な社会の一員として、あるべき姿を絶えず追求します。
- 行動規範 6 グローバルな企業として、関係する国々の社会の発展に貢献します。

相談窓口「ヘルプライン」の設置

法令違反や不正の防止、またそれらの兆候を早期発見し是正することを目的として、コンプライアンス相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。新菱冷熱の業務に関わるすべての方に利用していただくため、周知に努めています。

■ 独占禁止法遵守徹底への取り組み

新菱冷熱は、社長をはじめとする経営陣の強い決意とコンプライアンス委員会の指揮のもと、独占禁止法に反する行為はもとより、それと疑われる行為も行わないことを徹底し、独占禁止法の遵守に取り組めます。また、徹底に向け、全役職員への浸透・理解を進めてまいります。

独占禁止法研修の開催

2015年5月、公正取引協会の講師による「入札談合と独占禁止法研修」を開催し、国内の全営業職が受講しました。具体的な事例を中心とした講義により、法令遵守の重要性を徹底しました。



独占禁止法研修の開催

「独占禁止法遵守のための10か条」の制定

「新菱グループ コンプライアンス ガイドライン」の全面改訂に際し、独占禁止法を遵守徹底するために、日常業務において注意すべき事項を10か条にまとめました。また条項ごとに、さらに具体的な注意点や解説、関連する社内ルールを明記しました。

「別冊 関係法令の解説」の作成

「新菱グループ コンプライアンス ガイドライン」の別冊として「関係法令の解説(独占禁止法・建設業法等)」を作成し、新菱冷熱の全役職員とグループ会社の営業職を中心に配付しました。独占禁止法や関連する法律を体系立ててまとめた解説書として、教育に活用するものです。



「関係法令の解説(独占禁止法・建設業法等)」

「新菱コンプライアンスNews」での解説

全役職員に毎月メールで配信している「新菱コンプライアンスNews」においては、2回にわたり独占禁止法について解説し、独占禁止法遵守の重要性を、営業職だけではなく全役職員が深く理解するよう取り組みました。

■ 社内規程の強化

2014年12月より順次、コンプライアンスに関連する社内規程の制定および改定を実施しました。コンプライアンス規程、コンプライアンス相談通報規程、営業管理規程、賞罰規程など、社内の諸規則をとりまとめて規程化することで、組織や責任の所在を明確にしました。

■ さまざまなコンプライアンス教育の実施

新菱冷熱では、さまざまな機会や役職に応じたコンプライアンス教育を継続的に実施しています。コンプライアンス委員会主催の教育、各部独自のカリキュラムなど、幅広く実施しており、全役職員がつねにコンプライアンスを意識しながら業務に取り組んでいます。

● 2015年度コンプライアンス教育の対象者と教育内容

対象者	教育内容
全役職員	コンプライアンス ガイドライン教育
全役職員	e-ラーニングでの情報セキュリティ教育(2回実施)
新入社員	2014年新入社員フォローアップ教育、2次教育
新入社員	2015年新入社員基礎教育
役員・部長	顧問弁護士による関係法令教育、ガイドライン教育、入札談合と独占禁止法教育
昇格者	等級に応じたコンプライアンス教育
国内営業職	入札談合と独占禁止法教育

■ 国内グループ会社の体制整備

2015年7月、国内グループ会社の役員を対象とした、顧問弁護士によるコンプライアンス ガイドライン教育および新菱冷熱コンプライアンス推進室との事務連絡会をあわせて実施し、グループでのコンプライアンス体制整備と各社連携によるPDCAサイクルの構築について、認識を一つにしました。また各グループ会社におけるコンプライアンス委員会・ヘルプラインの再整備、関連規程の策定を実施しました。今後は、グループ全体での定期教育や連絡会を開催していきます。

海外営業所・海外現地法人への対応

新菱冷熱は、グローバルな企業として、各国・地域の法令の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより文化や慣習などに配慮した事業活動を推進しています。

2016年度には、海外営業所と海外現地法人の役職員を対象にした「コンプライアンス ガイドライン(グローバルバージョン)」と「海外における汚職防止に関するガイドライン」を策定し、教育の展開と運用の徹底を図ります。

反社会的勢力への対応

「反社会的勢力の威嚇には、絶対に屈しません。毅然として、勇気をもって排除します。」という行動規範・行動基準を遵守し、内部統制の一環として取り組んでいます。

また、2015年11月、対応マニュアルや国からの指針等をまとめた「反社会的勢力に対する対応要領」を改訂し、社員への情報周知に努めています。

CSR調達

お取引先、とくに協力会社の皆様との協力・連携により、CSRへの取り組みを推進していきます。「CSR調達ガイドライン」を定め、現在500社にのぼる企業の皆様にガイドライン遵守のご理解をお願いしています。2015年度は、

新菱冷熱CSRレポートをお読みいただいた約100社から、CSR活動に対するご意見をいただきました。2016年度は皆様のご意見を踏まえた活動展開とCSR調達の具体的取り組み状況の調査を実施していきます。

新菱CSR調達ガイドライン

1) 公正かつ健全な企業活動

自由な競争を阻害する行為や不正な競争などを行わず、公正かつ健全な企業活動を推進することをお願いします。

2) 品質・安全性および事業継続

有害物質の管理や製品の安全等に関わる法令を遵守し、製品の使用者や消費者の健康、安全の確保に努めてください。また、事業継続計画への自主的取り組みをお願いします。

3) 人権・労働・安全衛生への配慮

基本的人権を尊重し、労働環境や安全衛生に配慮した事業活動推進をお願いします。

4) 環境への配慮

生物多様性を含む環境保全および環境マネジメントを確実に実施し、地球環境に配慮した事業活動に取り組むようお願いします。

5) 法令遵守

各国・地域の法令ならびに国際条約や社会規範を遵守し、企業倫理に基づいた事業活動を行うようお願いします。

6) 情報の管理

コンピューターネットワークの脅威に対する防御策を講じるとともに、事業に関わる秘密情報、個人情報適切に管理・保護し、それらを不正・不当に利用したり漏洩しないようお願いします。さらに顧客・第三者の機密情報の漏洩防止に努めてください。

環境／消費者課題

新菱冷熱では、国内の全事業部・支社で環境マネジメントシステム (ISO14001:2004) の認証を取得し、継続的に環境保全活動に取り組んでいます。

消費者と施工作業者の安全を確保するために、石綿の取り扱いに関する管理体制を整えています。

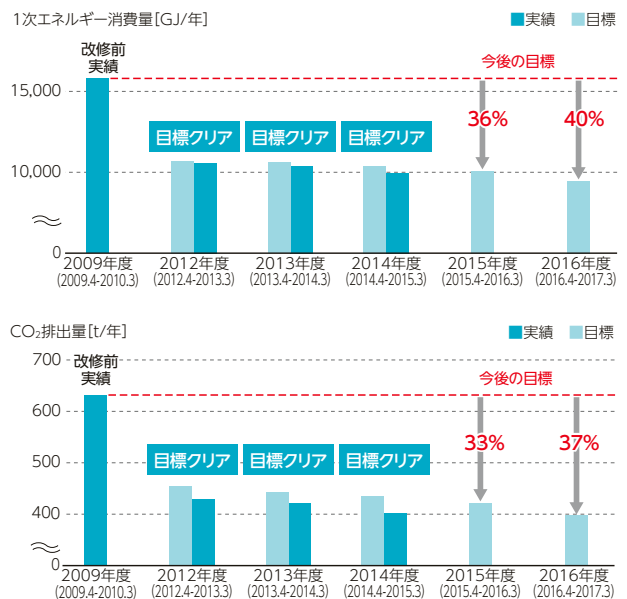
自社ビル省エネeco化プロジェクト

1970年竣工の本社ビルを改修し、「東京・四谷を、タスマニアに。」をテーマに、設備の改修だけで環境・省エネモデルビルにリニューアルしました(2011年9月竣工)。本社ビルでは、年度ごとに1次エネルギー消費量とCO₂排出量の削減目標を設定し、省エネルギーを推進しています。

改修後3年目に当たる2014年度(2014年4月～2015年3月)の運用実績では、1次エネルギー消費量とCO₂排出量の削減率が目標を上回りました。BEMS*データの解析により熱源システムのチューニングを行って運用方法を改善したり、OAフロア下部の断熱仕切りを設けたり、緑のカーテンを設置するなどの省エネルギー対策を実施して目標を達成しました。最終目標である1次エネルギー消費量削減率40%、CO₂排出量削減率37%(ともに2009年度比)に向けて、継続的な省エネルギー対策と運用改善に取り組んでいます。

*Building Energy Management System

●本社ビル改修による1次エネルギー消費量とCO₂排出量の削減効果



省エネルギー技術・低炭素化技術への取り組み

新菱冷熱は、2001年5月にISO14001の認証を取得して以来、14年にわたりEMS**1活動に取り組んでいます。運用時のエネルギー消費量の削減をとくに重視し、建築設備の設計・施工の際に、省エネルギー技術および低炭素化技術の採用を積極的にお客様にご提案しています。

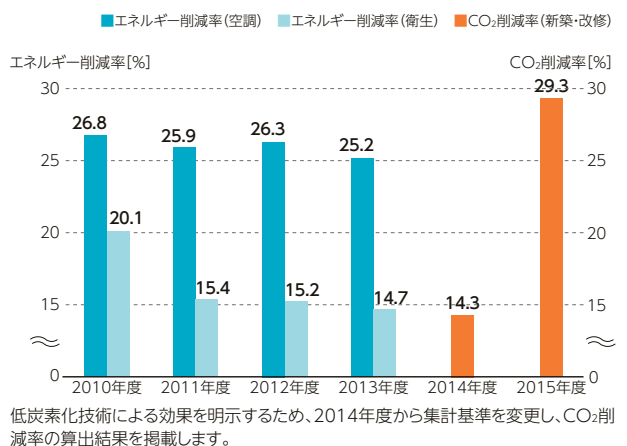
代表的な省エネルギー技術・低炭素化技術

- 熱源機器の高効率運転
- 搬送動力の軽減
- 排(廃)熱回収熱源の利用
- 換気負荷の軽減
- 再生可能エネルギーの利用
- SEMS**2 (BEMS) の導入
- コージェネレーションシステムの導入
- エアコン、PACの高効率機器の採用

**1 環境マネジメントシステム (Environmental Management System)

**2 Shinryo Energy Management Service

●省エネルギーシステム・機器の提案または採用による省エネルギー効果



低炭素化技術による効果を明示するため、2014年度から集計基準を変更し、CO₂削減率の算出結果を掲載します。

現場におけるCO₂排出量削減の見える化

建設における使用資機材の製造過程や、現場への運搬燃料、資機材の加工・据え付けなどの過程では、多くのCO₂が発生しています。新菱冷熱では、30年以上前から現場におけるCO₂排出量削減に取り組んできました。

■ 創意工夫から生まれた削減方法

現在までに、現場の創意工夫によってさまざまなCO₂排出量の削減方法・手段が実行され、50項目以上の削減方法・手法が標準化されています。数多く採用されている技術について紹介します。

3D-MAPS(3次元計測システム)

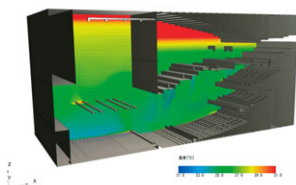
測量機器を基盤としたシステム「3D-MAPS」を使用し、計測と位置決め作業を行っています。これにより部材の工場加工割合が向上し、施工の手直しに伴う無駄な資材が削減され、CO₂排出量が抑制されます。機器更新工事に適用した例では、従来工法に比べてCO₂排出量を20%以上削減することができました。



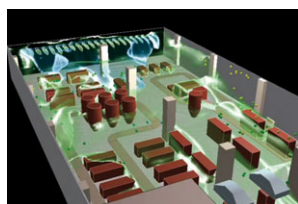
3D-MAPSによる計測作業

事前検証による最適化

アトリウムやホールなどの大空間や局所的な機器発熱がある工場などでは、室内全体ではなく、人や生産品の周辺など、必要な部分だけを最適な温度に制御することが要求されます。新菱冷熱では、CFD(数値流体シミュレーション)省エネ提案ツールを用いて検討し、空調設備を最適化することができます。最小限の設備とエネルギーで、快適・最適な環境をつくる技術により、CO₂排出量やランニングコストの削減が可能になります。



数値流体シミュレーションによる音楽ホールの温度分布解析事例



工場の気流分布

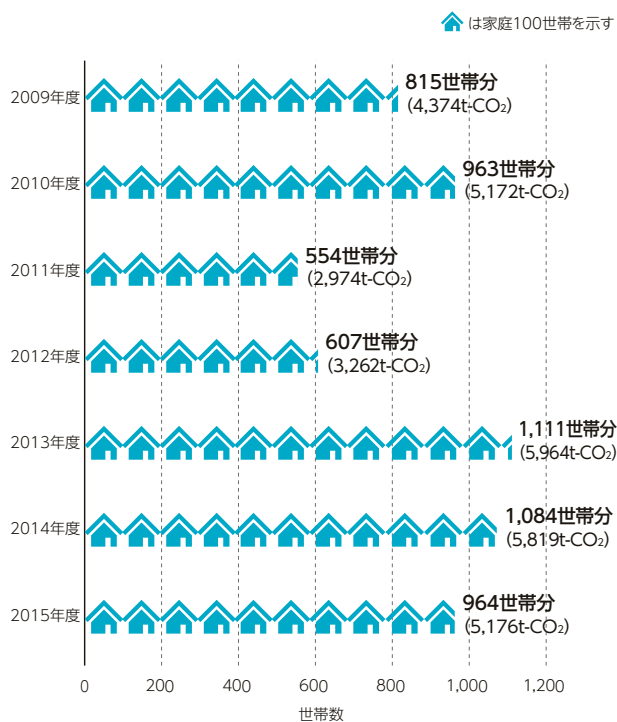
■ コミッショニング事業者(CxF)

新菱冷熱は、NPO法人 建築設備コミッショニング協会が認定するコミッショニング事業者に登録しました。コミッショニングとは、建築設備の実際の性能を確認し、本来の性能を実現するためのプロセスで、環境負荷の削減に大きく貢献する取り組みです。新菱冷熱のコミッショニングでは、省エネルギーの観点から空調設備などを点検・整備し、適切な状態で維持管理を行っていきます。これまでのコミッショニング実績を発展させ、お客様の環境配慮への取り組みをサポートしていきます。

■ 環境コミュニケーションプロジェクト

2008年から現場におけるCO₂削減量の見える化活動を実施しています。現場でのCO₂削減量を家庭1世帯当たりのCO₂排出量に換算して表しています。

● 現場でのCO₂削減量



家庭からのCO₂排出量:5,370kg-CO₂/世帯・年
出典:全国地球温暖化防止活動推進センター、家庭からの二酸化炭素排出量(2013年度)

生態系保全活動・啓発プログラム「環境ルネッサンス活動」

新菱冷熱は、「環境ルネッサンス活動」を開始しました。「環境ルネッサンス活動」は生態系保全の重要性に関する社員の認知度向上を目的とした啓発プログラムです。

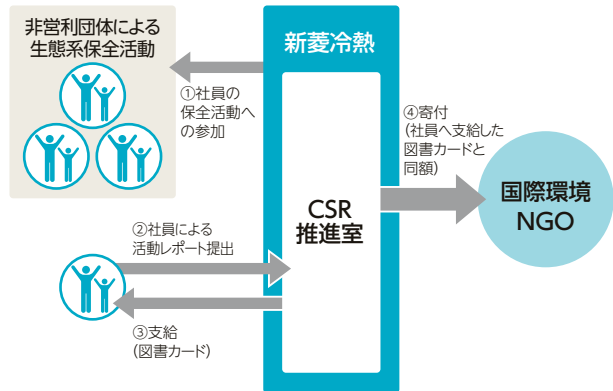
生態系保全や環境教育に関わる活動を行った社員に図書カードを支給し、環境に関する書籍の購入を補助し、生態系保全への理解と継続的活動への意欲向上を目指します。

また、この活動は、1年間に支給した図書カード費の同額を、国際環境NGOに寄付するマッチングギフト制度になっています。

生物多様性民間参画パートナーシップ

新菱冷熱は生物多様性民間参画パートナーシップに参加しています

●環境ルネッサンス活動のしくみ



石綿・有害物質処理

石綿障害予防規則の制定以降、社内の管理組織の設置や石綿管理担当者会議の開催、新菱冷熱独自の「石綿施工サイクル」の運用を通して、石綿除去作業における社員ならびに作業員への健康障害を予防するとともに、大気中への石綿飛散防止に全力で取り組んでいます。

■石綿作業主任者資格の取得推進

新菱冷熱では、施工に携わる社員全員が技能講習を受け、石綿作業主任者資格を取得することを目指しています。2015年9月末現在、1,046名の社員が石綿作業主任者の資格を保有しています。

■石綿パトロール等の実施

石綿の取り扱い処分が適正に行われているかを確認するため、全国の現場について定期的に「石綿パトロール」を実施して指導しています。



石綿の取り扱いに関する講義

■海外での石綿除去作業の事例 バンチャックコージェネレーションプラント

海外でも石綿対策に力を入れています。たとえば、石綿に関する法規制のないタイにおいても、新菱冷熱の社員はもとより、海外現地スタッフ、作業員に対する健康障害防止に努めるため、日本の法律に則した対策をとりながら石綿除去作業を行いました。

写真はタイのバンチャックにあるコージェネレーションプラントの現場で行われた石綿スレート板の除去作業の様子です。



保護具を着用した現地作業員



石綿スレート板を廃棄物処理場に埋め立て処分



石綿スレート板 除去前の倉庫

人権／労働慣行

新菱冷熱では、グローバル企業として各国においても人権を尊重し、行動規範の一つに「家族にも誇れるような活気にあふれ、ゆとりのある職場」の確保を掲げ、さまざまな取り組みを行っています。

グローバルな人材活用

新菱冷熱の社是の一つ「学歴年令を問わない 実力ある者が指揮をとれ」は、海外では「学歴」「年令」に、「nationality(国籍)」を加えて英訳されています。各海外拠点において、社是は「Company Philosophy」として国内同様に行動の原点となっています。グローバル企業として発展していくためには、国籍・人種の垣根のない、幅広い人材の活用が必要であると考えています。

Company Philosophy

- ・ Be fair and straightforward
(正しからざることに与するな)
- ・ Do your best with all your effort
(あらん限りの誠実を尽くせ)
- ・ Have leadership, irrespective of education, age, or nationality.
(学歴年令国籍を問わない 実力ある者が指揮をとれ)

社是英語版

ワークライフバランスへの取り組み

■ ころオンライン

メンタルヘルスに関する相談窓口として、外部の専門家による「ころオンライン」を開設しています。このサイトで、各種情報収集やメールによる相談ができます。

■ メンタルヘルス教育

社員の心身の管理と保持・増進を目的とし、管理職を中心とした「メンタルヘルス教育」を実施しています。2015年度は、新任管理職等、合計55名が受講しています。

■ 各種休暇取得促進制度

新菱冷熱は、社員が心身ともに健康であることを第一と考えています。社員同士がお互いをサポートしながら、休暇を取得しやすい職場環境をつくる取り組みの一環として、各種休暇取得の促進制度を導入しています。

プロジェクト休暇

主に現場勤務の社員を対象に、現場竣工の節目に連続休暇を取得することで、心身ともに健康を維持し、次の現場への移動前にリフレッシュすることを目的としています。2015年度は237名が取得しました。

アニバーサリー休暇

全社員を対象に本人や家族の記念日に休暇を取得できる制度で、年間合計3日間の取得を目標としています。

リフレッシュ休暇

勤続10年、20年、30年の節目に社員の貢献に敬意を表し、また支えていただいた家族に対する感謝を込めて、連続した休暇を取得できる制度です。



2015年度 30年勤続表彰(38名)

ダイバーシティ(多様な人材活用)への取り組み

■ 全般(教育・支援制度)

ダイバーシティの講義を開催

部長以上の役職員を対象に、佐々木常夫様(株式会社佐々木常夫マネージメント・リサーチ代表取締役)による講義「経営戦略としてのダイバーシティ」を開催しました。「自分と人を活かすマネジメント」や「異なる発想と価値を認めて経営戦略とすることの重要性」をご講義いただきました。



佐々木常夫様

ダイバーシティ関連制度

2015年10月、社員が出産・育児、介護等と仕事を両立し、意欲をもって長期的に活躍できるよう、配偶者帯同転勤制度およびカムバック制度を導入しました。

■ 社員活躍

役職定年制度の廃止

2015年10月1日から役職定年制度を廃止しました。従前は、55歳到達時点で、社員の処遇等を見直す制度でしたが、新制度では、役職に合った処遇および評価をすることで、意欲をもって責任ある仕事ができる環境を整えました。

経験豊かな社員の活躍を促す制度の推進

新菱冷熱では、これまで会社を支えてきた経験豊かな社員に引き続き活躍してもらうため、能力に応じて活躍できる制度・環境づくりを推進しています。2014年度には、重要な業務を担当する「嘱託S」を制度化し、やりがいとそれに見合う評価を整えました。2015年10月からは、技術職だけでなく営業や事務、研究開発職も制度の対象に追加しました。また、最長65歳までの再雇用に加え、最長70歳までグループ会社で働くことができる制度も整えました。

● 能力に応じた嘱託制度

分類	職務要件
1) 嘱託S	主任技師 海外現地法人社長または副社長 営業・事務・研究開発等の高度専門職
2) 嘱託I	現場代理人(現場常駐)
3) 嘱託II	その他現場員(現場常駐) 現場対応設計責任者(現場常駐) 現場事務(現場常駐)
4) 嘱託III	その他の嘱託再雇用者

■ 女性活躍

経団連 女性活躍のための自主行動計画の掲載

新菱冷熱は、多様な人材確保による組織力強化を目指し、女性が無理なく働き続けられる環境の構築と、女性の活躍推進に取り組んでいます。日本経済団体連合会のウェブサイトでは「女性の役員・管理職登用にに関する自主行動計画」を公開しています。

定量的目標

- 2020年に女性管理職数2倍を目指す。
- 女性総合職の人数を5年以内に2倍、10年以内に4倍を目指し、女性総合職の採用を強化する。

定性的目標

- 在宅勤務制度、所定労働時間短縮の期間延長制度などを導入し、働きやすい環境を整える。
- 女性総合職を対象としたキャリア開発・リーダーシップ向上などの集合研修を実施し、意識の改革を進める。
- 女性活用のための制度や取り組みを社内に周知し、女性の活躍推進のための社内風土づくりに努める。

女性用安全用品

「女性が働きやすい職場」の支援を目的に、現場で働く女性社員のための安全用品を導入しました。新菱冷熱の安全基準を満たし、かつ女性が使いやすく体形に合ったサイズの作業着・ヘルメット・安全帯などを製作しました。ほかにも、安全靴や保護眼鏡等の市販の装着品についても女性用サイズを集め、社内の購買サイトで展開しています。



新菱冷熱基準・女性用安全用品

外国人活躍

外国人エンジニアの現場実習

建設業界の人材不足は、これからの深刻な課題です。その対応の一つとして、外国人エンジニアが、日本国内の建設現場で実習できる取り組みを行っています。新菱冷熱は、この取り組みを通じ、国内外で一緒に働く仲間を増やしていきたいと考えています。2015年度は、新菱フィリピンから13名が現場とBIMセンターに配属されました。

海外現地スタッフ日本招聘プログラム

2015年3月、9カ国19名の海外現地法人のマネージャークラス(管理職)を対象とした研修を日本で開催しました。新菱グループの理解と幹部候補として必要な知識の学習を目的とした5日間の研修で、参加者は、本社・中央研究所を見学したりマネジメントスキル研修講座などを受講したりしました。

研修を通して新菱グループについて学んだほか、初めて会った各国のマネージャーたちとの交流も図ることができました。また、初めて日本を訪れた人も多く、たくさんの日本の文化に触れ、“お花見”も楽しみました。



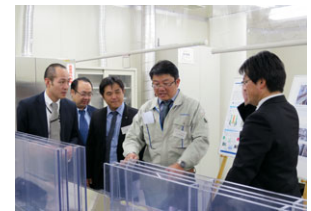
マネジメントスキルの講習(本社)



腐食防食技術の説明(中央研究所)



植物工場技術の説明(中央研究所)



ホルムアルデヒド除去技術の説明(中央研究所)

VOICE

都市環境事業部 技術二部 技術二課
課長 椿 俊二(指導担当)(写真左)

2015年6月に、新菱フィリピンから実習に来たアントニーさんは、日本人の社員とともに現場業務を勉強しています。現場業務を通して、日本における仕事に対する考え方、お客様への対応、協力会社への対応などを学んでいます。

アントニーさんは非常に勤勉で、一生懸命に仕事をしてくれます。言葉の不便さはありませんが、物事に真摯に取り組んでいます。また、いつも笑顔であいさつしてくれて、人柄の良さを感じます。お互いに日本語と英語を教え合い、勉強しながら楽しく仕事をしています。

新菱フィリピン

レイエス・アントニー・ゴンザレスさん(写真右)

日本の建設現場では、高品質が当たり前です。この現場に着任してから、仕事に対する日本の不断の献身を感じています。すべての項目・工事が詳細に正しく適切に計画され、調整されています。スケジュールが正確に管理され、誰もが安全に注力しています。私は、フィリピンがこのようなシステムになるところが見てみたいです。



現場での実習



事務所での様子

教育／人材育成

新菱冷熱は、創業以来「人は最大の財産」と考えています。社員のもつ技術・知識・経験こそが、新菱冷熱の経営資源です。社員の力を最大限に引き出すための多様な教育プログラムを準備し、すべての年代・役職の社員が、つねにチャレンジ精神旺盛で、柔軟な発想をもって仕事ができるような人材育成を進めています。

新しい教育体制の開始

新菱冷熱は、社員一人ひとりが、会社の基本精神の理解を深め、仕事の能力が向上することを目的とした人材育成を行うため、2015年5月、「教育研修規程」を定め、社内教育制度の整

理・見直しを行いました。また、2015年10月からは、教育研修体系を「全社教育」と「部署別教育」の二つに分け、双方の教育が最適な連携を図り、実効ある教育を推進する体制を整えました。

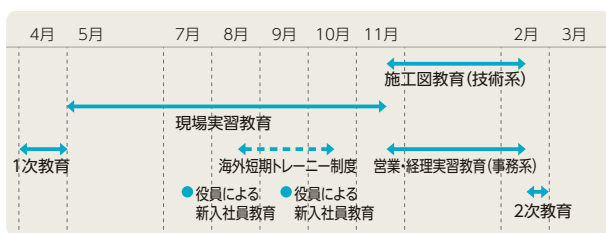
多様な教育の実施

■ 新入社員教育

充実した教育カリキュラム

1年間にわたる新入社員教育では、配属直後から、自信をもって働くことができる体制を整えるため、技術系・事務系それぞれに対して最適なカリキュラムを準備しています。

● 新入社員教育

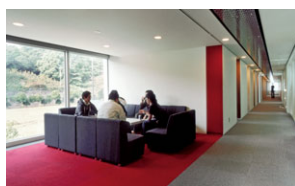


研修寮「耕風寮」

約1年間の「耕風寮」での全寮制教育は、創業当時から続く新菱冷熱の伝統です。人材育成の場として、ともに生活し学ぶことにより、同期の絆を深めます。



耕風寮



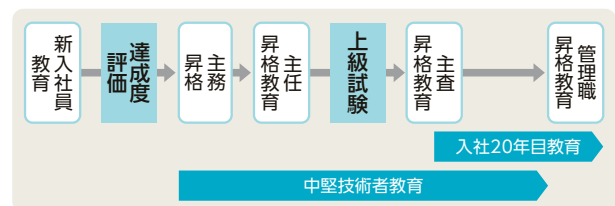
コミュニケーションスペース

■ 教育研修体系

全社教育(必須教育)

社員の役割の認識と、さらなるステップアップを目指し、各階層・年次別に、社内試験と集合教育が必須として定められています。また、中堅以上の技術職社員には、現場力強化を目的に実践的な技術教育が実施されます。

● 階層別・年次別集合教育



全社教育(選択教育)

意識改革、スキルアップを目的とし、中堅社員以上および昇格管理職を対象に、職責・階層に応じた外部セミナーを選択受講する教育を実施します。

部署別教育

従来、部署別を実施していた実務教育を「部署別教育」として体系立てて計画・実施することで、「全社教育」との連携を図ります。

海外研修制度

新菱冷熱は、1972年から業界に先駆けて海外事業に着手し、アジア・中東を中心に営業所・現地法人を開設し、事業を展開してきました。近年では、グローバルに活躍できる人材を多く育成するため、さまざまな教育プログラムを設けています。

新入社員 海外短期トレーニー制度

新入社員全員を海外の施工現場に、数名単位で派遣。現地に1週間滞在し、現場実務を経験することで、海外勤務や生活に対する理解を深め、グローバルな感覚と海外で働く意欲をもった人材を育成します。



香港での現場研修

海外実務派遣制度

国内で実務を経験した入社4～8年目の社員を対象とした制度です。公募により選ばれた社員が、1～3年間かけて、海外の現場における全工期を経験します。2014年は4名参加、2015年は5名が参加予定です。新菱冷熱の海外事業を担う若い力を、実務を通して育成します。



マレーシアでの現場スタッフとの打ち合わせ

VOICE

首都圏事業部 主務 坂東 孝洋(新菱マレーシア 海外実務派遣)

海外で仕事ができる大きなチャンスだと思い、実務派遣制度に応募しました。赴任当初は、英語・マレー語・中国語などのさまざまな言葉が飛び交う中で仕事することに驚きました。いまは、現地スタッフとコミュニケーションを丁寧にとり、協力して現場業務を進めることが、何より大切だと思っています。まだ言葉の壁はありますが、海外の現場ならではの技術や施工方法を積極的に学んでいきたいです。



子ども参観日

2015年8月、中央研究所で「子ども参観日2015」を開催しました。「子ども参観日」は、社員の家族に「お父さん」「お母さん」の仕事を知ってもらうことで、社員一人ひとりに誇りをもって仕事に励んでもらえるように2011年から毎年実施しているイベントで、今回が5年目です。

当日は、全国から集まった小中学生を中心にした子どもたち48人とその家族、総勢93人が参加しました。新菱冷熱の技術を分かりやすく伝えるだけでなく、環境についても学べる内容にし、また、子どもたちの自由研究にも生かせるように、3つの実験・体験を実施しました。

3つの実験・体験

氷の成長を見よう、冷たい水・空気をつくろう

氷蓄熱システム「ザ・自由雪計®」の小型装置を使って、過冷却水からシャーベット状の氷が生成される過程を体験

しました。氷から作り出される冷風により建物を空調するしくみについて学びました。

水素をつくろう、水素エネルギーで車を走らせよう

水から水素を発生させ、その原理を学ぶとともに水素の特性を体験しました。環境にやさしい水素エネルギーを使って車(模型)を走らせ、その原理を学びました。

仕事体験・親子で取り組む共同作業

図面を見ながら、塩ビ配管の組み立てを親子で共同作業し、仕事の体験をしました。



水素をつくろう



仕事体験(配管組み立て)

コミュニティへの参画および発展

新菱冷熱は、社会の持続的発展に貢献する企業として、地域や文化を大切に活動を実践的に実施、推奨しています。中でも地域とのかかわりにおいては、目の前の小さな活動の積み重ねが大事だと考えています。

社会とのかかわり

■ 企業市民協議会への入会

2015年5月、公益社団法人 企業市民協議会 (CBCC) に入会しました。1989年に日本経済団体連合会により設立され、企業のCSR活動への推進と実践支援活動をしている団体です。CBCCでの活動を通して、他企業の皆様との交流を図り、新菱冷熱のCSR活動をさらに積極的に、多角的に進めたいと考えています。

■ サマースクール「空気をデザインする技術を見学しよう」の開催

2015年8月、理工系分野に興味がある女子学生向けの見学会を中央研究所で開催しました。これは、内閣府の取り組み「理工チャレンジ(リコチャレ)」に連携する日本経済団体連合会の呼びかけに応じて開催したもので、理工系の仕事の面白さを伝え、将来の勉強や仕事を考えるときに少しでも役立つようにと企画されました。中学生から大学院生まで12名の方にご参加いただきました。

新菱冷熱の女性社員が開発技術などを説明したほか、参加者には実験装置の操作を体験していただきました。見学会後のティータイムでは、女性社員が、理工系を選んだきっかけや現在の仕事に携わるようになった理由、仕事の面白さについて話をしました。



新菱冷熱サマースクール

■ 国連グローバル・コンパクト分科会活動への参加

国連グローバル・コンパクトのローカルネットワークであるGCNJ^{*}の2015年度の分科会「防災・減災(DRR)分科会」に参加しました。民間企業が防災・減災意識を高め事業継続性を高めることの重要性や、企業の技術を使った防災・減災への貢献方法などを勉強する会です。新菱冷熱が、災害時には自らの事業活動を継続し、社会のインフラ復旧に貢献できる体制を強化するため、分科会を通じて先進的な情報や知識を学んでいきます。

^{*} グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン

■ 大学での非常勤講師活動

国立大学法人 筑波技術大学で、20年以上にわたり非常勤講師を務める機会をいただいています。中央研究所の研究者が講師を務め、建築設備系や機械・システム工学系などの授業を行うほか、学生の皆さんには中央研究所の実規模の実験設備を見学していただいています。

VOICE

中央研究所 専任課長 鈴木 正美

今年度の授業科目は「エコ環境システム」です。聴覚障がいをもつ学生にも、空調の概要を理解してもらえるよう、授業内容をスライドや動画で表示するなど工夫しています。コミュニケーションの難しさはありますが、学生から授業の詳しい内容について質問があったときは、とてもうれしく感じます。講義を通じ、建築設備への興味を深めてもらえるよう頑張ります。



授業の様子

地域とのかかわり

■ 四谷清掃ボランティア活動(本社)

新宿区四谷二丁目町会青年部の呼びかけに賛同し、2004年から毎月1回、四谷地区の「ポイ捨て防止キャンペーン」への参加を続けています。スタッフ部門の社員数名が毎月交替で、青年部や地域の皆様と一緒に、四谷二丁目周辺の歩道や植え込みにあるタバコの吸い殻・空き缶などを拾って歩きます。活動に参加して10年以上になり、四谷地域の一員として環境保全活動への意識を深める良い機会になっています。

また、毎年4月には、新入社員の研修としても同活動に参加しており、2015年度は76名が参加しました。

お世話になっている四谷地域への感謝の気持ちと、環境に携わる企業としての自覚をもって、今後も活動を継続していきます。



ポイ捨て防止キャンペーン参加

■ 野島公園周辺の清掃ボランティア活動(横浜支社)

2015年5月の休日、横浜支社安全衛生協議会が主催する、協力会社の社員とご家族を交えた家族会でバーベ

キューを行い、親睦を深めました。ビンゴゲームや子どもたちによるスイカ割りなどの楽しい催しの後、会場とした横浜市にある野島公園周辺の清掃ボランティアを行いました。

清掃は、家族会に参加いただいた協力会社13社の社員とご家族の皆様にも賛同・参加いただき、参加者の全員(約100名)で実施しました。毎年定期的に開催している家族会ですが、清掃ボランティアは今回が初めての試みでした。ボランティア活動の大切さを認識するとともに、例年よりさらにさわやかな気持ちで会を終えることができました。



清掃ボランティア活動

■ 名古屋駅地区街づくり協議会での清掃活動(名古屋支社)

2008年に設立された「名古屋駅地区街づくり協議会」は、名古屋駅地区を多くの方が訪れ・働き・学び・住みたい街にするための活動をしており、新菱冷熱は、この活動に賛同し参加しています。毎月名古屋駅地区の清掃活動を実施しているほか、毎年7月には涼を求めるとともに協議会員の交流を目的とした「名古屋駅地区打ち水大作戦」が開催されます。

文化・芸術への支援

新菱冷熱では、各種団体等への賛助会員登録・協賛等を通して、文化・芸術への支援活動を行っています。2015年度の賛助会員登録を行っている音楽関連団体は次のとおりです。

この支援活動により、美しく豊かな文化・芸術の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

音楽関連の賛助会員登録先一覧(団体名・五十音順)

NHK交響楽団／オーケストラ・アンサンブル金沢／大阪交響楽団／大阪フィルハーモニー交響楽団／神奈川フィルハーモニー管弦楽団／関西フィルハーモニー管弦楽団／九州交響楽団／札幌交響楽団／新国立劇場／新日本フィルハーモニー交響楽団／仙台フィルハーモニー管弦楽団／セントラル愛知交響楽団／東京交響楽団／東京都交響楽団／東京二期会／東京フィルハーモニー交響楽団／名古屋フィルハーモニー交響楽団／日本オペラ振興会／日本センチュリー交響楽団／日本フィルハーモニー交響楽団／広島交響楽団／読売日本交響楽団

グループ会社のCSR活動

2015年度は、新菱冷熱だけでなく、新菱グループ各社においてもCSR体制をスタートしました。

グループ各社から選任された委員による実行委員会を定期的に開催し、新菱グループ全体としての意識を共有するとともに、各社におけるCSR活動の認知度向上や活動の推進に取り組みました。

グループ各社の概要

新菱テクニカルサービス株式会社

所在地 東京都新宿区荒木町14

設立 1989年

店舗・オフィスの空気調和設備、給排水設備、電気・計装設備、防災設備に精通したスペシャリストです。各設備の新設からリニューアル、メンテナンスまでのライフサイクルを通して、最適なソリューションをトータルでご提案します。



新菱工業株式会社

所在地 東京都千代田区鍛冶町2-2-1

設立 1963年

ポンプ等の設計・開発・製造を通じて、安らぎのある人間環境の創造を目指して、広く社会に貢献します。ポンプ設備のほかに、環境関連設備、産業機械設備、防災機器などについても、計画・設計・製造・施工・メンテナンス・販売を行っています。



株式会社城口研究所

所在地 東京都千代田区鍛冶町1-5-7

設立 1926年

1917年に「城口汚物下水処理研究所」として創設。衛生、空調、防災設備のコンサルティングから設計、施工、保守管理までサポートします。「環境衛生の向上を通じて社会に貢献する」という創業の精神に則り、社会の成長とともに技術の開発・研究に励み、歩み続けています。



株式会社秋田キャッスルホテル

所在地 秋田県秋田市中通1-3-5

設立 1970年

JR秋田駅から徒歩7分に位置する秋田を代表するホテルです。地元のホテルとしてすべてのお客様に感謝とまごころをもっておもてなしいたしております。新しい時代にふさわしい安全と安心の提供、また、あらゆる人が生涯を通じて快適に利用できる「エイジフレンドリーホテル」を目指しています。

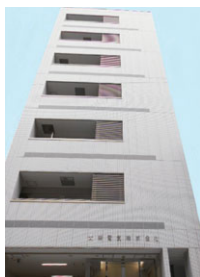


大栄電気株式会社

所在地 東京都中央区湊1-14-15

設立 1947年

ライフラインである電気設備を通じて、信頼と確かな技術で社会に貢献する会社です。あらゆる建築物の電気設備全般とクリーンな電力である太陽光発電設備の設計、施工ならびに保守管理を行います。



株式会社グローバルスタッフ

所在地 東京都新宿区荒木町14

設立 1998年

新菱グループの人材サービス会社として、建築・土木・設備のスペシャリストの派遣・紹介を中心とした人材サービスを提供しています。そのほか訪日外国人向けに中国語ができる接客販売員、保険ショップ相談員等の派遣・紹介も行っています。



■ グループ各社の主な取り組み

CSRの取り組み項目を「基本テーマおよびコーポレート・ガバナンス」のもとに設定しています。

基本テーマおよび コーポレート・ガバナンス		2015年度の取り組み	サービス	新菱テクノニカル	城口研究所	大栄電気	新菱工業	ホテル	秋田キャッスル	グローバル スタッフ
ー	コーポレート・ガバナンス	・新菱冷熱工業(株)監査部による監査実施・指摘事項改善 ・取締役や部長等による定期的な経営会議・幹部会の実施	●	●	●	●	●	●	●	●
1	コンプライアンスへの 取り組み	・全社員に対するコンプライアンス教育の実施 ・コンプライアンス委員会の設置・定期会議実施 ・全社員に対する情報セキュリティ教育の実施 ・ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)の継続運用 ・衛生管理マニュアル作成・実施 ・協力会社との暴力団排除条例等関係法規遵守誓約書の取り交わし ・ヘルプラインの継続運用	●	●	●	●	●	●	●	●
2	有事の際の滞りない 事業活動に向けた 取り組み	・社内防災訓練・安否確認の定期実施 ・全社員に対する防災袋支給 ・食料・水等備蓄品確保 ・ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)によるBCP訓練実施 ・非常用発電機設置やネットワーク分散システム等の導入 ・顧客・協力会社等緊急連絡体制網作成	●	●	●	●	●	●	●	●
3	環境保全と社会的投資	・フールビズによる省エネ実施 ・ゴミ分別徹底 ・再生紙、再生トナー利用推進 ・工場の環境管理基準を制定、騒音・振動レベル基準値遵守、環境負荷低減 ・省エネルギー空調システム導入 ・宿泊プランにクリーニング不要による割引プランを追加 ・屋上緑化施設の維持 ・石綿作業主任者資格の取得推進(正社員取得率100%達成)	●	●	●	●	●	●	●	●
4	教育・人材育成の実施	・各種教育制度、管理職教育、新入社員教育、スキルアップ視察、研修等実施 ・定例会や社内データベースによる技術情報、トラブル情報の共有 ・安全衛生協会会員企業に対する人材育成の継続実施	●	●	●	●	●	●	●	●
5	ワークライフ バランスへの取り組み	・永年勤続表彰の実施 ・プロジェクト休暇、アニバーサリー休暇、リフレッシュ休暇取得奨励 ・産業医講話等メンタルヘルス教育実施、メンタルケア電話サービス活用 ・組織構造の変更や業務の見直し、システム導入による業務効率化、負荷分散 ・育児休暇制度の利用推進	●	●	●	●	●	●	●	●
6	ダイバーシティへの 取り組み	・女性管理職積極登用 ・女性ならではの視点、感性を生かし細部にまでこだわった商品開発 ・60歳以上のシニア活躍範囲拡大、責任あるポジションへの登用 ・65歳以上のシニア活用 ・外国人技術者活用検討 ・障がい者雇用推進継続実施	●	●	●	●	●	●	●	●
7	コミュニティへの参画 および発展	・神田祭への参加 ・自社ビル空きスペースを町内会神輿等置場として提供 ・中央区災害対策建築協会への参加の継続 ・地域町会および、鐵砲洲稲荷神社の催し物への継続参加 ・町内会主催防災訓練への定期参加 ・地域の清掃・植栽活動 ・ホテル内メディカルモール設置による地域医療への貢献	●	●	●	●	●	●	●	●
8	国際的な取り組み	・NPO法人 FOIFAの助言によるエイジフレンドリーホテルとしての各種施策実施 ・国際教養大学との連携による海外からの旅行者に対する各種施策実施 ・ハラルに対する取り組み	●	●	●	●	●	●	●	●

グループ各社のCSR活動トピックス

コンプライアンスへの取り組み

新菱テクニカルサービス コンプライアンス教育

2015年9月1日にコンプライアンス社内規程を定め、コンプライアンス委員会や事務局、相談窓口「ヘルプライン」を設置しました。また、コンプライアンス教育も実施し、9月末までに全役職員が受講しました。



コンプライアンス教育

環境保全と社会的投資

大栄電気 屋上緑化

中央区が進めているヒートアイランド現象の緩和対策として、本社ビルの屋上では、2008年の竣工当時より、屋上緑化施設を維持しています。



本社ビル屋上緑化

教育・人材育成の実施

新菱工業 交通安全講話の実施

2015年7月29日に、万世橋警察署による交通安全講話を実施し、あらためて一人ひとりが正しい交通マナーを実践し、交通事故を防止することを徹底しました。



交通安全講話

秋田キャッスルホテル ミス・ユニバース直伝新入社員研修

2015年6月、「ミス・ユニバース・ジャパン秋田大会」ファイナリストを講師に迎え、「内面からより美しく、より健やかに」をテーマに、新入社員研修を行いました。



新入社員研修

グローバルスタッフ 新菱フィリピン技術者受け入れ

新菱冷熱が新菱フィリピンより13人のエンジニアを受け入れるにあたり、スムーズに環境になじめるように、ビザの登録や住民登録、外国人向けのセミナー等を行い、今後日本で仕事と生活を両立していくために必要なことへの理解を促しました。



来日した新菱フィリピンのエンジニア

コミュニティへの参画および発展

城口研究所 神田祭参画

地元で隔年に行われる神田祭は、日本三大祭りの一つと称され、5月は地域全体がお祭りモードになります。城口研究所のビルエントランスを神輿が鎮座するスペースとして町内会に提供し、社員も法被を着て祭に参加します。



町内会の神輿



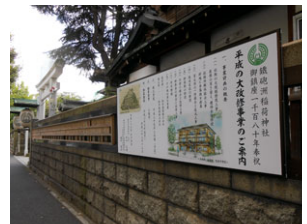
神田祭

大栄電気 鐵砲洲稲荷神社奉納

地域振興として、鐵砲洲稲荷神社 平成の大改修事業への協賛を行いました。



鐵砲洲稲荷神社



平成の大改修事業への協賛

秋田キャッスルホテル 地域の清掃ボランティア

2015年4月、新入社員研修の一環として地域の清掃ボランティア活動を行いました。



秋田広小路・仲小路周辺清掃活動

グローバルスタッフ 周辺清掃

地域で働く者として、普段お世話になっている近隣地域への感謝と、身近な環境保全の意味を込め、毎週水曜日に本店(東京都新宿区荒木町)周辺の清掃活動に取り組んでいます。育児による短時間勤務者も参加可能なように、9時15分から実施しています。



荒木町周辺清掃活動

CSRへの取り組みに関する第三者意見



株式会社インテグレックス
代表取締役社長
秋山 をね

1. 評価したい点

同社では、従来への環境への取り組みを、より広く社会的責任を果たす活動に発展させたいという経営トップのコミットメントのもと、2013年にCSR検討委員会を立ち上げ、CSRへの取り組みを開始しました。最初の4カ月間を準備期間として、全国から選抜した社員の参加により「同社のCSRとは何を指すものか」を議論し、また、具体的な活動や実行スキームについての議論を重ねて活動の骨子を決め、活動指標を作成するというプロセスを経ていきます。当初から経営トップが強くコミットしていること、準備段階で全国からの社員が参加していること、具体的な活動の開始前に「同社のCSRが指すもの」を明確にして活動のベクトル合わせをしていることは高く評価できます。

また、CSRについての推進体系が分かりやすく、経営ビジョンとCSR宣言および中長期と単年度の事業計画の位置づけと、重点課題と基本テーマの関係が整理され、CSRと経営が一体となっています。これもCSR検討委員会での徹底した議論の成果と考えられます。

具体的な活動の開始にあたっては、CSR推進室を中心に、各部署にCSR実行委員を選任して活動体制を整備し、全国の事業部・支社でCSRの説明会を開いて社員の理解を深め

るとともに、各事業部・支社が、全社方針を踏まえた活動計画を立てて活動を実施し、実績をまとめる体制としており、社員それぞれが仕事の現場で取り組むことを目指しています。

初年度の取り組みについて、昨年初めて発行したCSRレポートで報告していますが、「活動成果と今後の取り組み」として、重点課題と基本テーマの取り組み項目、活動成果、次年度の取り組みを表形式でまとめており、各課題を俯瞰しながら活動のPDCAを回している様子がうかがえます。

また、活動開始2年目で、取り組みをグループでのCSR活動に発展させ、グループ各社が取り組み項目ごとの活動を展開しています。短い期間で、体系的に全社活動として進め、グループ展開にもつなげていることは、高く評価できます。

2. 期待したい点

業務に即した活動を行うために、各事業部・支社が活動計画を立てて実績をまとめることは評価できますが、CSR活動が事業部・支社の部分最適に陥らないよう、会社・グループとしての全社最適になるように、取り組み項目の関係性も考えながら、部署間・グループ間での情報共有や連携・コミュニケーションを図りながら活動を進めていくことが求められます。

また、現場ベースで全社最適の活動を進めていくためには、CSRに取り組むそもそもの目的ともいえる経営ビジョン実現への想いを、活動の担い手である社員一人ひとりが共有し、それぞれの現場・仕事に具体的な活動として落とし込んでいくことが重要です。

社員一人ひとりへの浸透は容易ではないと思いますが、浸透・共有のための取り組みを続けるとともに、グループ全体にCSRという横串を通して、「さわやかな世界をつくる」ための活動を着実に展開されていくことを期待します。

第三者意見を受けて



CSR担当(2015年度)
副社長執行役員 田中 靖啓

秋山様には、新菱冷熱がCSR活動を開始するまでのプロセス、および社内において重要課題を共有させる取り組みについて、ご意見を賜りました。CSRの立ち上げにあたっては、新菱冷熱のCSRとは何かを明確にすること、これを重要と考え、社内検討会で十分に議論いたしました。この点をご評価いただいたことに深く感謝いたします。これからも、皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りながら真摯に取り組んでまいります。



CSR担当(新任)
常務執行役員 阿部 靖則

CSR活動はどうあるべきか手探りで進んでいるところ、秋山様のご意見で自分たちの立ち位置を確認することができました。たくさんのご評価をいただき心より感謝申し上げます。新菱冷熱のCSRは、社会への責任を果たす活動であるとともに、社員の誇りを示すものです。2016年度は、CSR活動を社員一人ひとりに浸透させることに重点を置き、活動に取り組んでまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

「新菱冷熱CSRレポート2015」を通じて、2年度目の活動を皆様にご報告できることをうれしく思います。今号から編集後記を設けるにあたり、これまでの活動を振り返りたいと思います。

●新菱冷熱CSR活動の準備期間(2013年11月～2014年2月)

新菱冷熱は、建設業の立場から環境配慮への重要性を認め、2001年より環境マネジメントシステム(ISO14001)に取り組んできました。そして2013年には、環境に限定せず社会的責任を果たす活動に発展させたい、という社長の意志のもとCSR検討委員会が発足しました。全国から選抜された委員が、CSRの基礎から勉強しながら、新菱冷熱はCSRで何を指すのか、具体的な活動や社内の実行スキームについて議論を重ね、活動の骨子を決めていきました。

●活動の開始(2014年4月～)

CSR委員会、CSR推進室が発足、各部署にCSR実行委員を選任して、活動体制を整備しました。社員の理解を深めるため、全国の事業部・支社を訪問し、新菱冷熱CSRの説明会を開きました。事業部・支社ごとの活動計画を立て、半期ごとに活動実績をまとめる体制を整えました。

●新菱冷熱CSRレポート2014(日本語版)発行(2014年12月)

第1号のCSRレポートを発行しました。

●新菱冷熱CSRレポート2014(英語版)発行(2015年8月)

海外現地法人にもCSR活動を理解してもらうため、英語版を発行しました。

●新菱グループのCSR活動への展開(2015年4月～)

グループでのCSR活動に発展させたいという意見は2014年度からあり、2015年度は、新菱グループとしての活動に発展させました。2015年2月にはグループ各社への説明、実行委員の決定を行い、4月には第1回グループ会社実行委員会議を開催しました。

●CSR推進室の2015年度の主な活動

CSR活動の理解と浸透を深めるため、実行委員との連絡を密にする活動を心掛けました。／「新菱冷熱CSRレポート2014」の社内外アンケートをとり、2015年度版に皆様のご意見を反映しました。／各社の紹介から始まった第1回グループ会社実行委員会議は感慨深いものでした。／安全統括部の協力を得て女性用安全用品をリリースしました。安全基準と使いやすさの両立に留意しました。／新菱冷熱らしい生態系保全活動について考え、意識向上を目的とした「環境ルネッサンス活動」を開始しました。／第三者意見・秋山をね様とのダイアログでは、推進室メンバーの思いをくんでいただいたほか、貴重なアドバイスをたくさんいただきました。



CSR委員会(2014年10月20日)



CSR実行委員会議(2015年4月14日)



グループ会社CSR実行委員会議(2015年4月20日)



CSR実行委員会議(2015年6月23日)



第三者意見・ダイアログ(2015年9月10日)
秋山をね様(中央)とCSR推進室

 **新菱冷熱工業株式會社**
SHINRYO CORPORATION

〒160-8510 東京都新宿区四谷二丁目4番地
(03) 3357-2151 (大代表)
<http://www.shinryo.com/>



2015年12月発行